

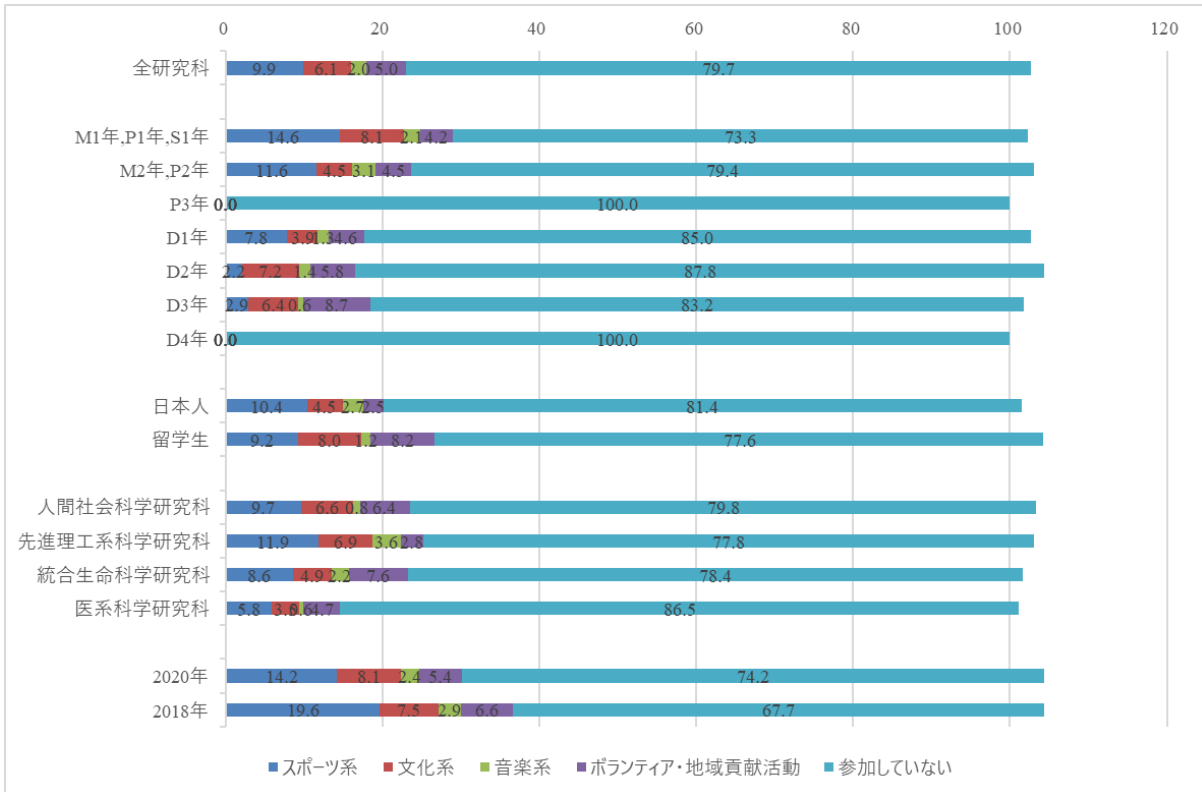
大学院

(※ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合があります)

1 課外活動の参加状況

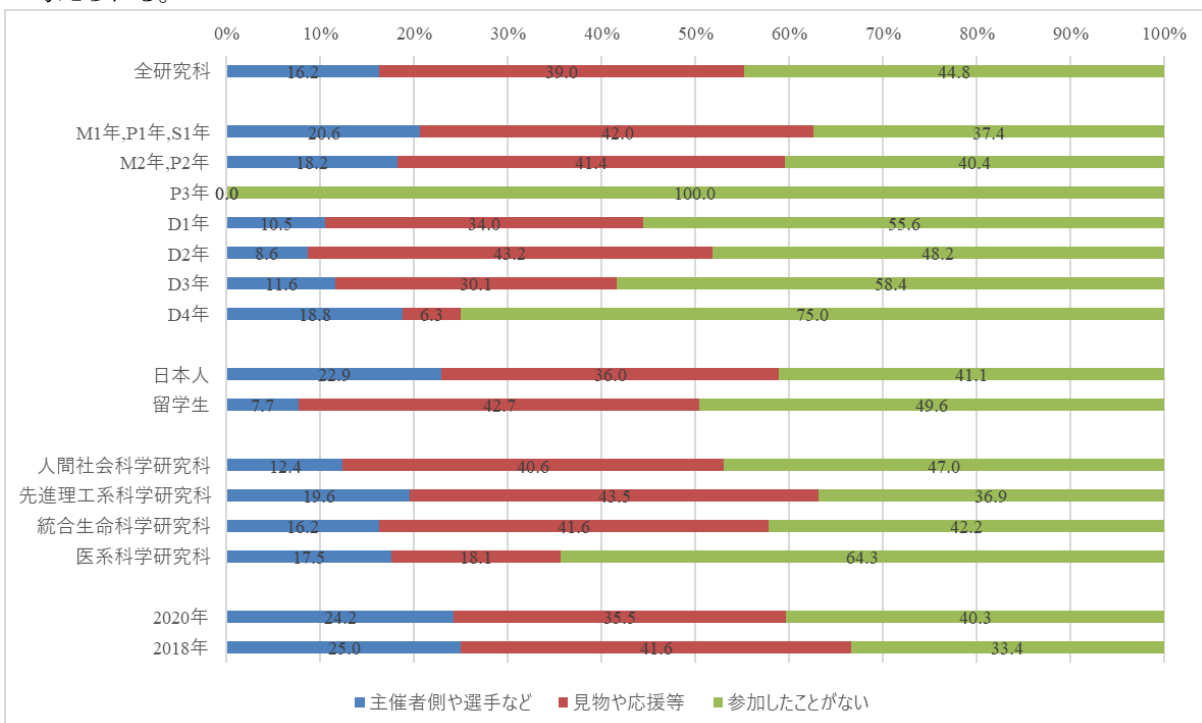
設問1 学内のクラブやサークル活動に参加していますか。(複数回答可)

79.7%の大学院生が、学内のクラブやサークル活動に参加していないと回答した。コロナ発生以前の調査と比べると、参加率が低下していることがわかる(2018年度は67.7%, 2017年度は67.4%)。なかでも博士課程後期の学生の参加率が低いことは、その多くが研究活動に専念しているためだと考えられる。また、日本人学生と留学生の比率を見ると、留学生の方が参加率が高く(日本人18.6%, 留学生22.4%), 特に「ボランティア・地域貢献活動」への参加率が日本人学生に比べて高いことが窺える(日本人2.5%, 留学生8.2%)。



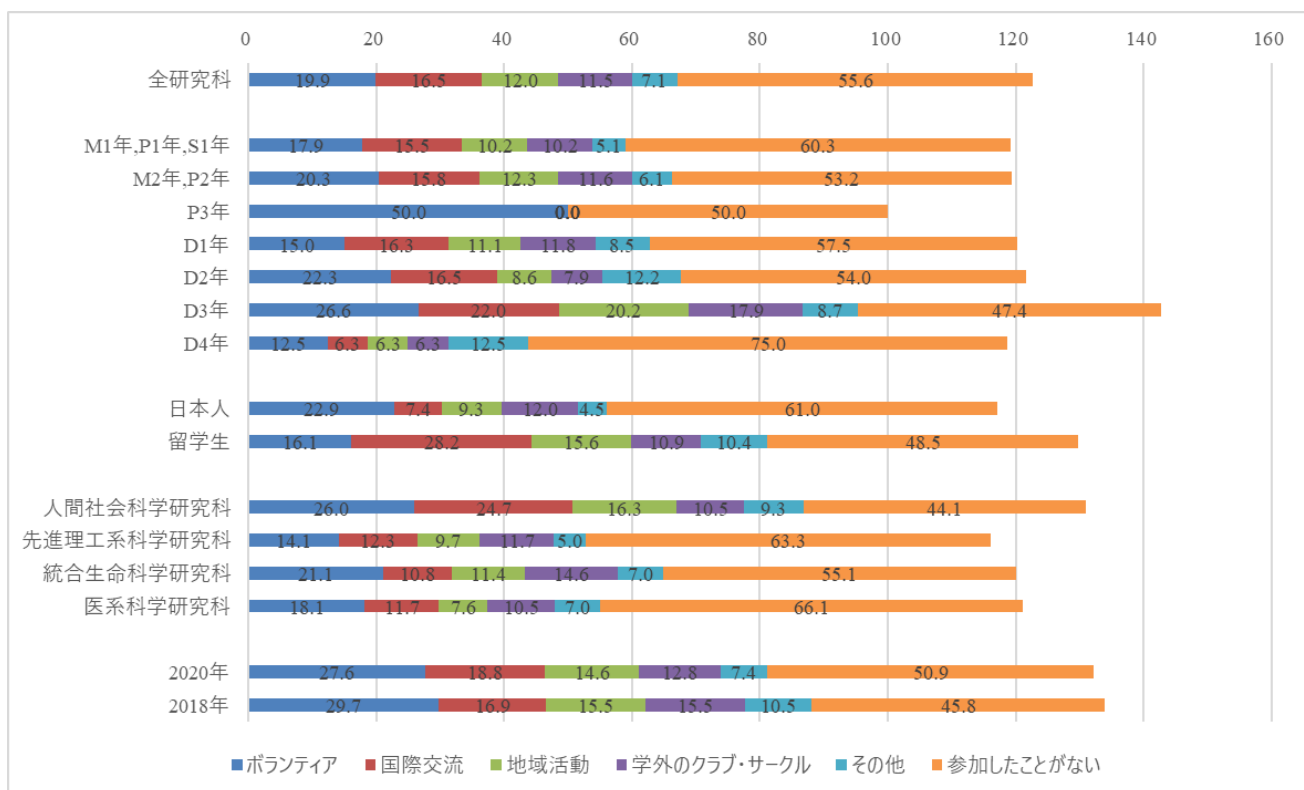
設問2 大学祭, ゆかたまつり, フェニックスリレーマラソン, 霞祭等の大学の行事に参加したことがありますか。

大学の行事に参加したことがある大学院生の割合は約55%である。コロナ発生以前の調査に比べると、参加経験率は減少しており(2018年度, 2017年度ともに参加経験率は約67%), 学部生と同様, コロナの影響が考えられる。



設問3 学外のボランティア活動や地域の活動に参加したことがありますか。(複数回答可)

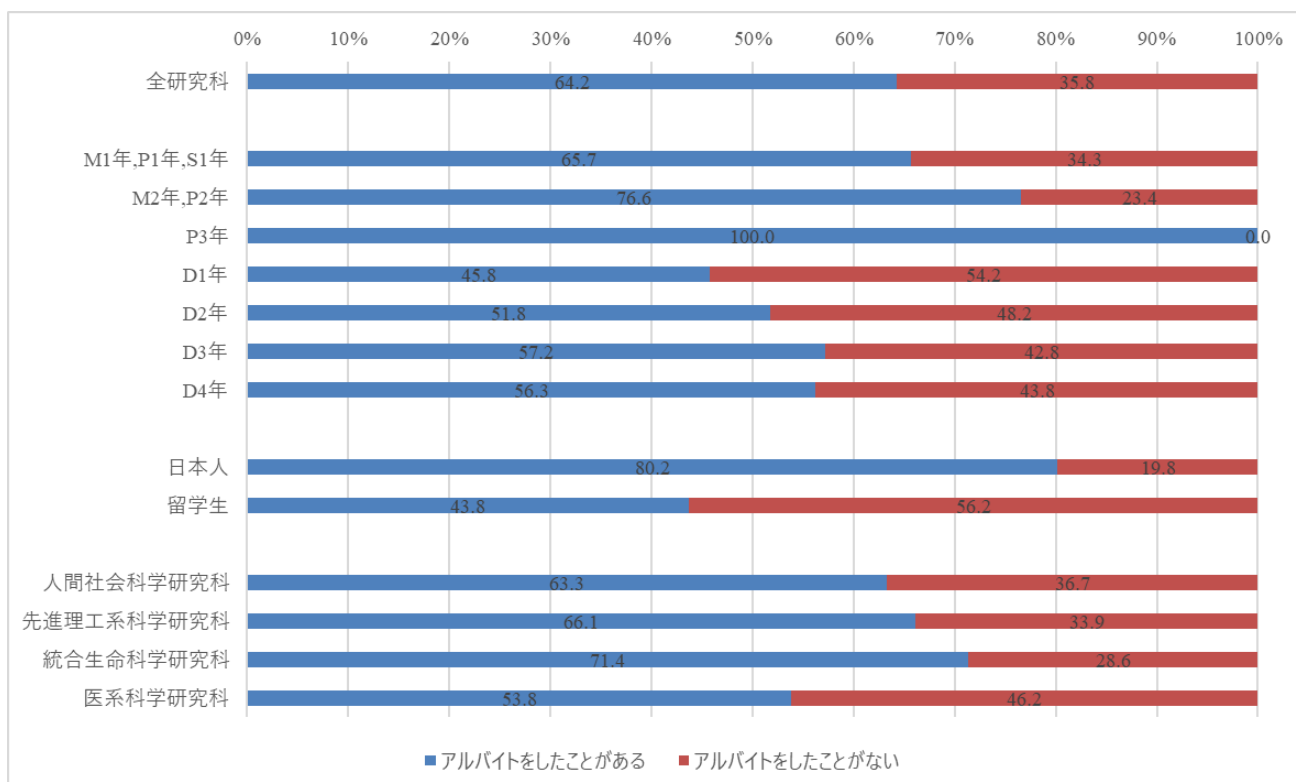
学外のボランティア活動や地域の活動に参加したことがある大学院生は全体の44.4%であり、コロナ発生以前の調査に比べると減少傾向にある(2018年度は54.2%, 2017年度は約57.1%)。日本人学生と留学生の比率を見ると、日本人の参加経験率が39%に留まるのに対し、留学生の参加経験率は約51.5%と高く、特に「国際交流」への参加率が日本人学生に比べて高い(留学生28.2%, 日本人7.4%)。研究科別に見ると、人間社会科学研究科の参加率が最も高く、中でも「ボランティア」「国際交流」の比率が高い。



2 アルバイトの状況

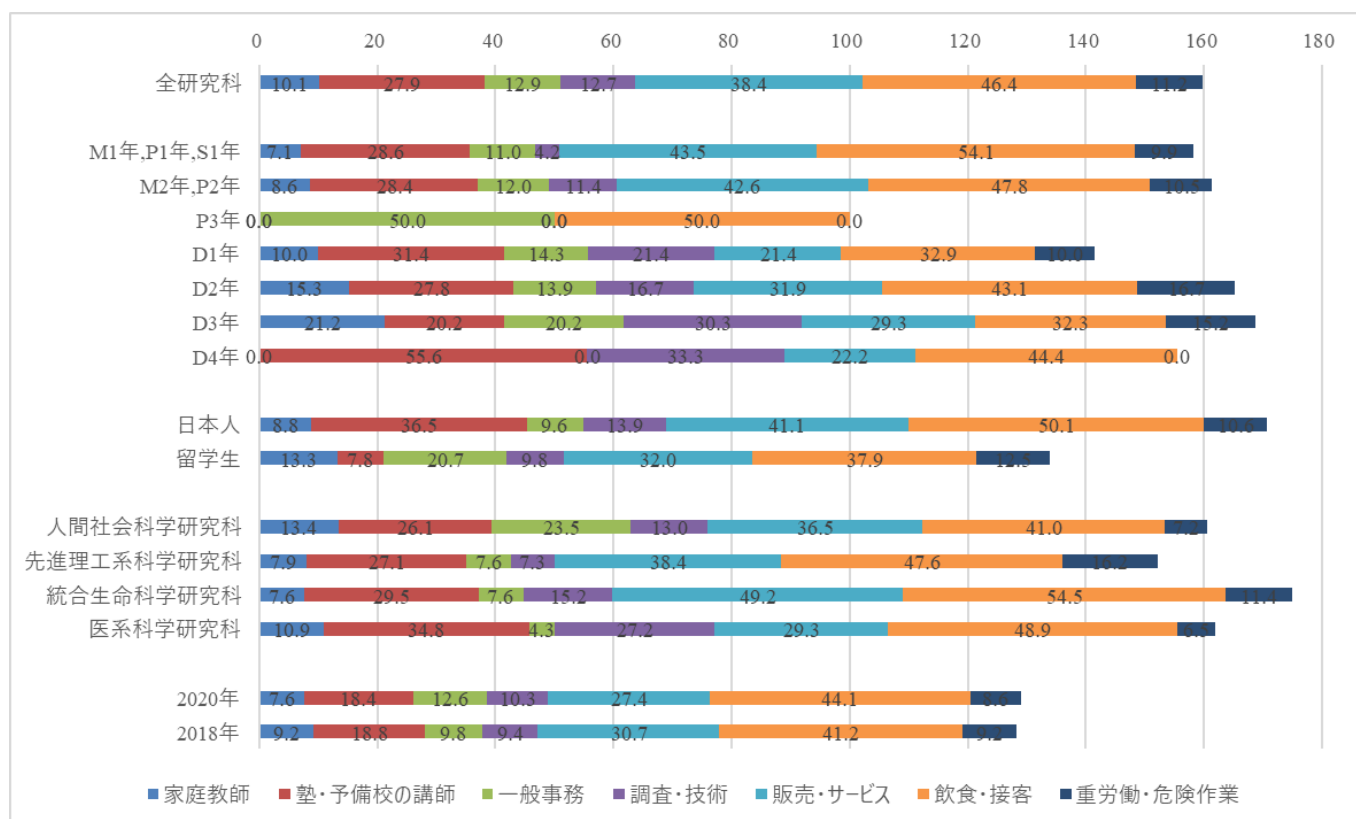
設問4 入学後何らかのアルバイトをしたことがありますか。

入学後に何らかのアルバイトを経験した大学院生の割合は64.2%である。この設問については、日本人学生(80.2%)と留学生(43.8%)との間で顕著な開きがある。



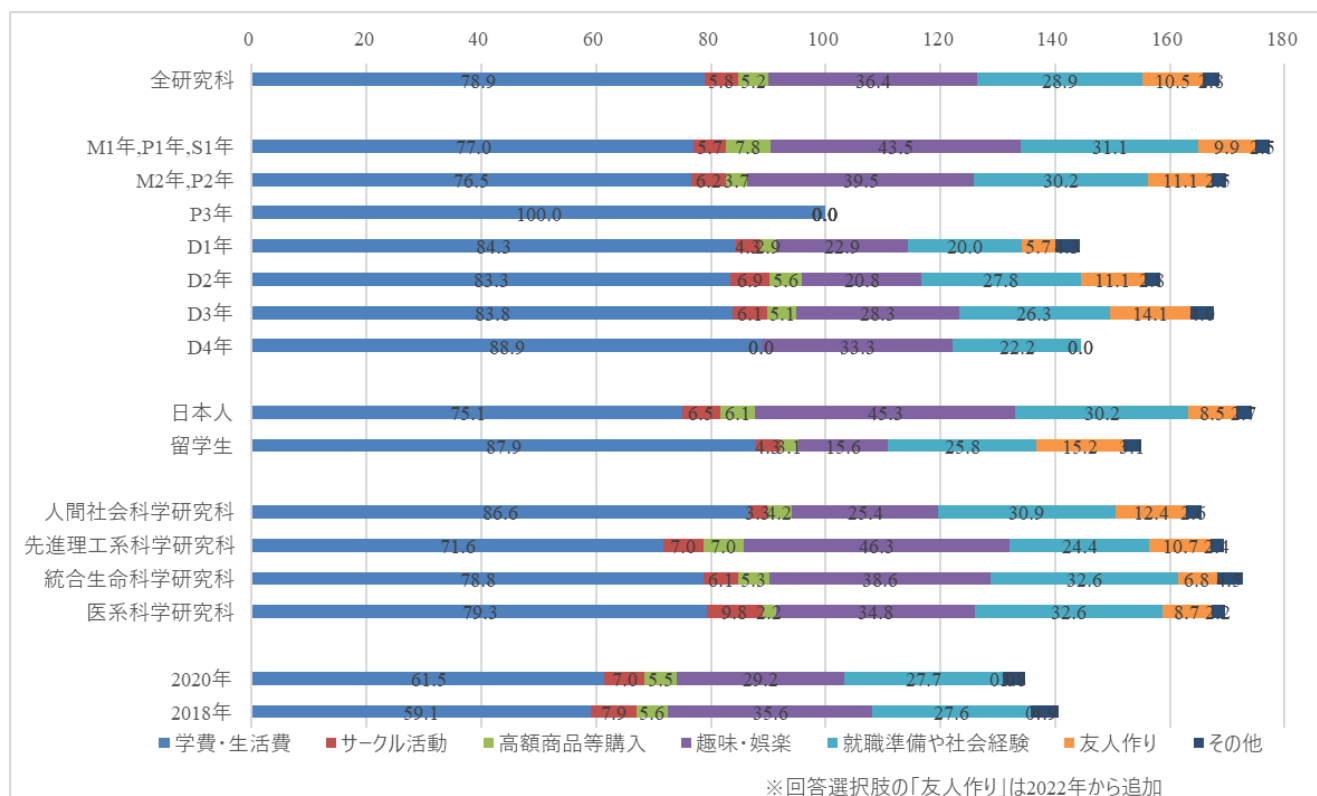
設問5 したことがある（又は現在している）アルバイトはどれですか。（複数回答可）

アルバイトの内容としては、「飲食・接客」（46.4%）が最も多く、「販売・サービス」（38.4%）「塾・予備校の講師」（27.9%）と続き、学部生と同様の結果となった。過去の調査と比べても、その比率に大きな変化は見られない。



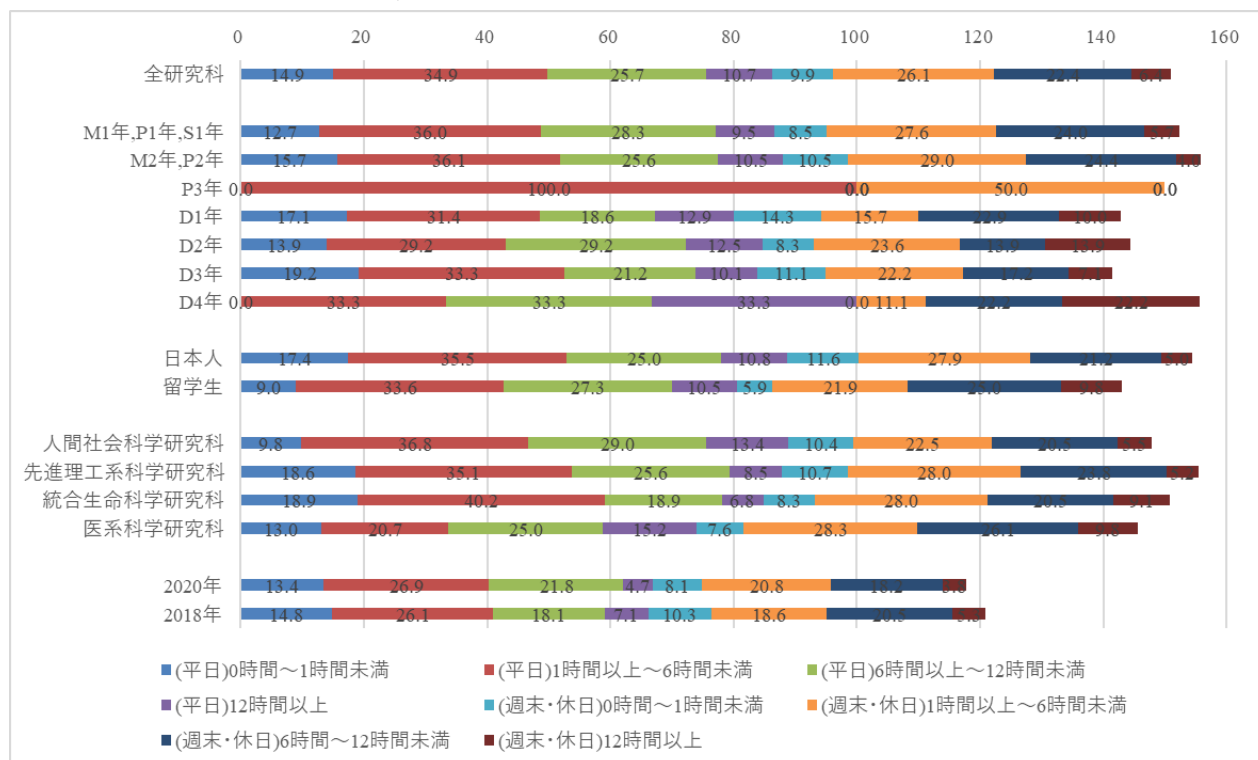
設問6 アルバイトの主な目的は何ですか。（複数回答可）

アルバイトの主な目的としては、全体の78.9%が「学費・生活費」のためと回答し、「趣味・娯楽」（36.4%）、「就職準備や社会経験」（28.9%）と続く。コロナ発生以前の調査に比べると、「学費・生活費」のためと回答した大学院生の比率が大幅に増加していることがわかる（2018年度は59.1%、2017年度は56.9%）。特に留学生については、87.9%が「学費・生活費」を主な目的に挙げている。



設問7 1週間あたりアルバイトを何時間していますか。「平日」及び「週末・休日」それぞれの中から1つずつ選択してください。

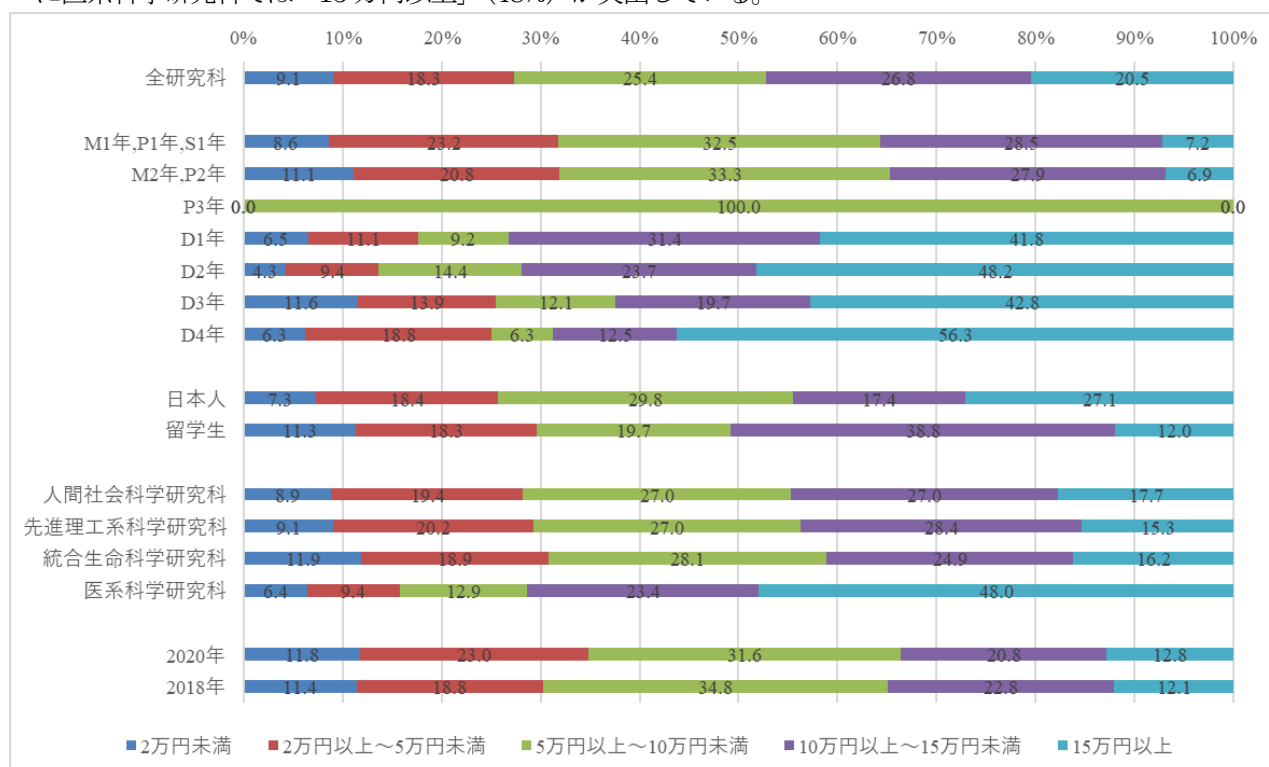
アルバイトをしている時間は、「平日1時間以上～6時間未満」(34.9%)が最も多く、「週末・休日1時間～6時間未満」(26.1%)、「平日6時間以上～12時間未満」(25.7%)と続く。学部生に比べると、平日の長時間労働の割合が減っており、大学院生が平日は学業中心の生活をしていることが想像できる。



6 経済状況

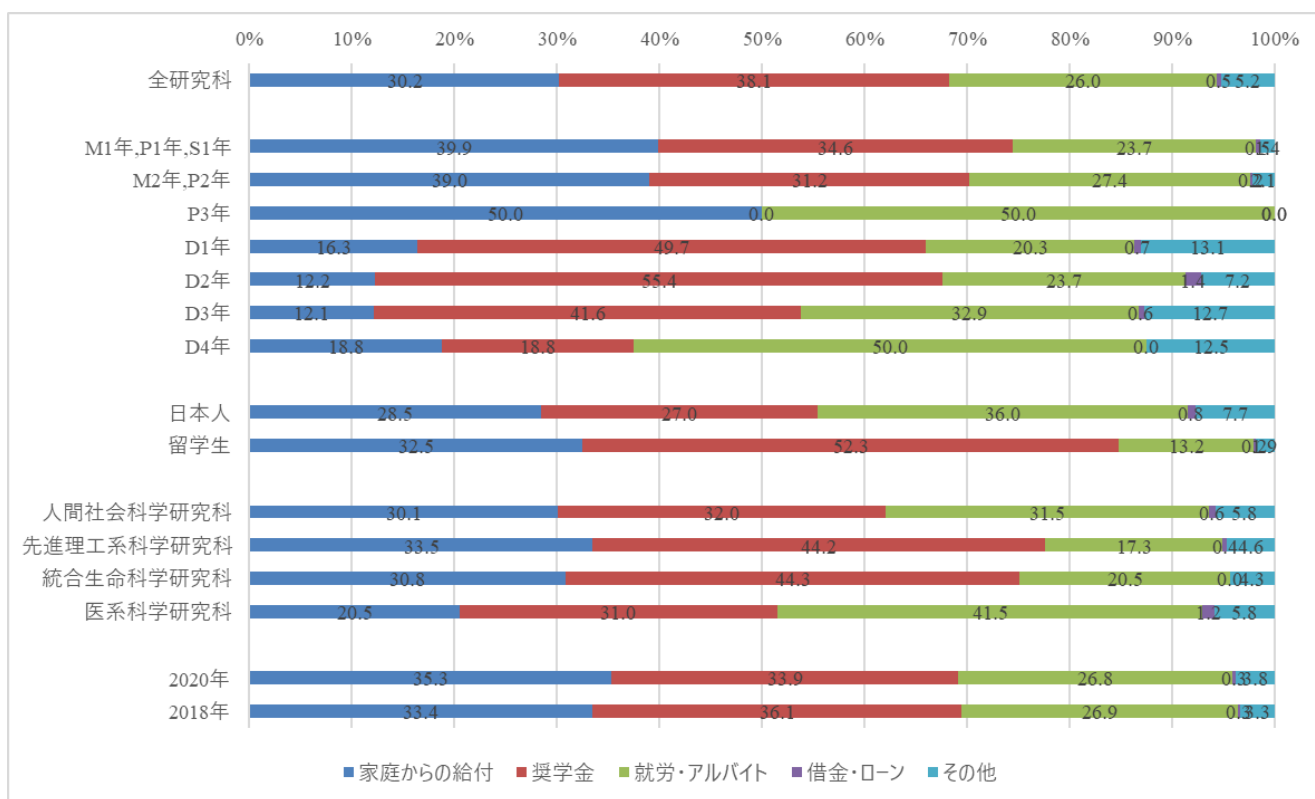
設問8 1か月の総収入(仕送りやアルバイト等,すべての収入を含める)はいくらですか。

1ヶ月の総収入については、全体を見れば「10万円～15万円」(26.8%)が最も多く、「5万円以上～10万円未満」(25.4%)、「15万円以上」(20.5%)と続く。学部生に比べて全体的に総収入額が多いことが窺える。特に医系科学研究科では「15万円以上」(48%)が突出している。



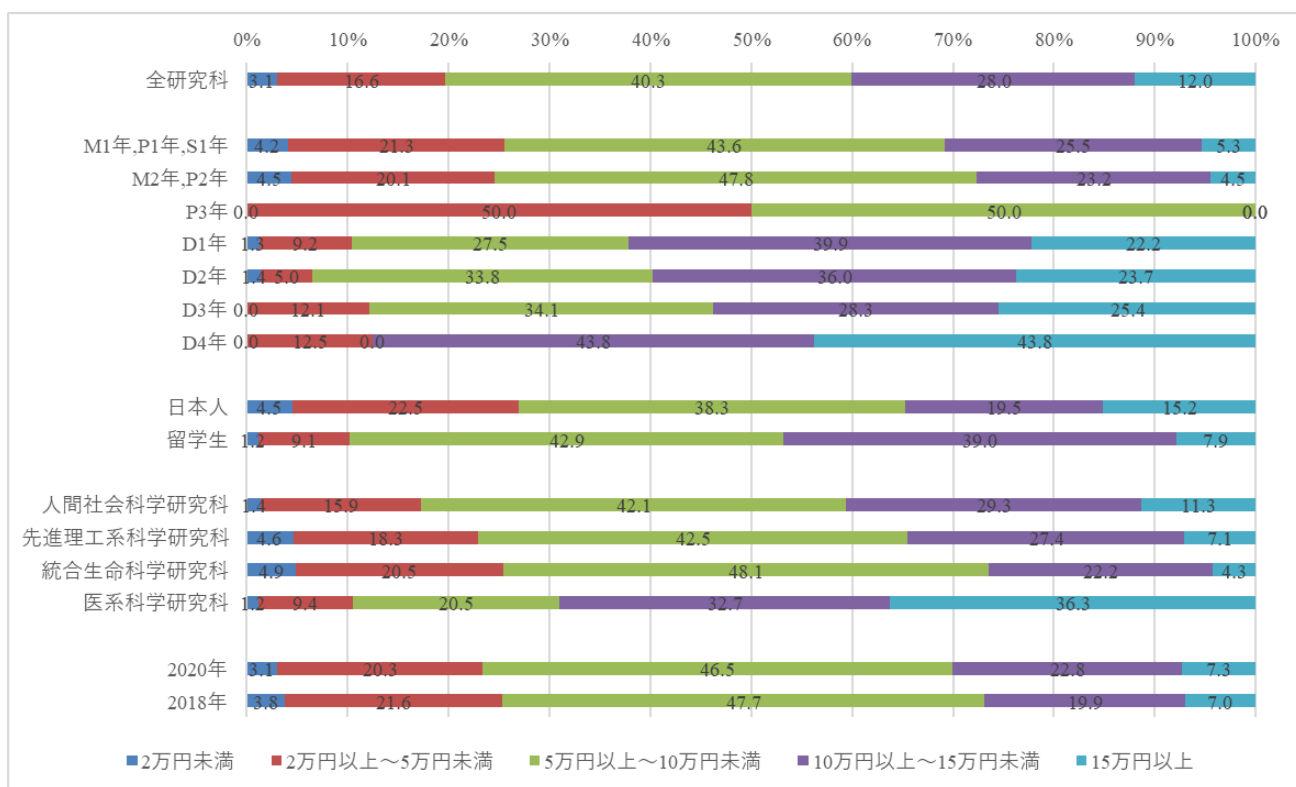
設問9 1か月の収入のうち1番多い収入は、次のどれですか。

4つの研究科間の比較がどこまで適切かは一考を要するが、医系科学研究科の「就労・アルバイト」依存度の高さ（41.5%）、先進理工系科学研究科と統合生命科学研究科の奨学金依存の高さ（先進理工系科学研究科44.2%、統合生命科学研究科44.3%）に留意する必要がある。



設問10 1か月の支出はいくらですか。

バラツキはあるものの、おおよそ5~15万未満の支出が70%前後であることがわかる。

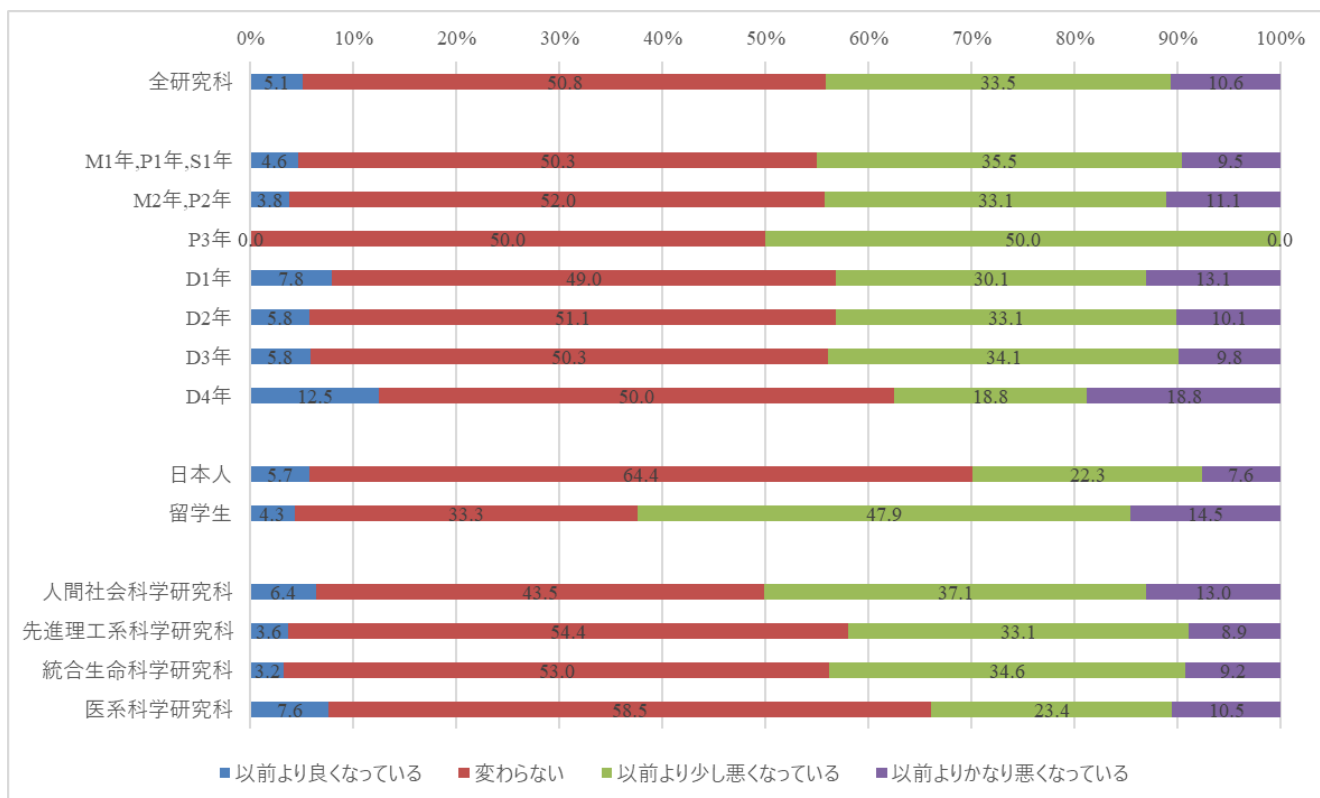


設問 11 1か月の支出のうち、多く必要とする経費は何ですか?ただし、授業料は含みません。(複数回答可)
 住居費 (60%前後)、生活費 (60～70%前後) がほとんどを占めていることがわかる。



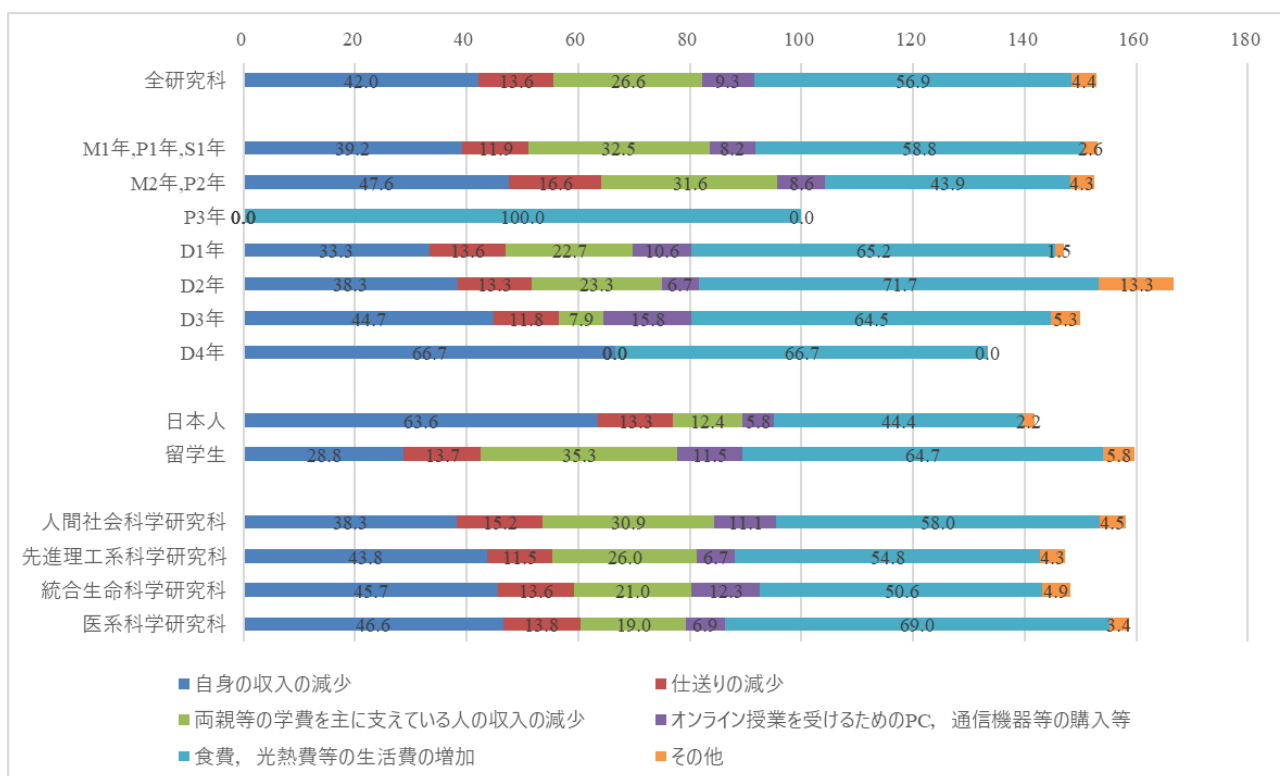
設問 12 コロナ禍前後の経済状況の変化を教えてください。

以前と変わらないと答えた大学院生がボリュームゾーン (50%前後) ではあるが、少し悪くなっていると答えている大学院生も少なくない (30%強)。特に留学生にそのような認識を持っている者が半数近く居る (47.9%) 点は留意して対策を考える必要がある。



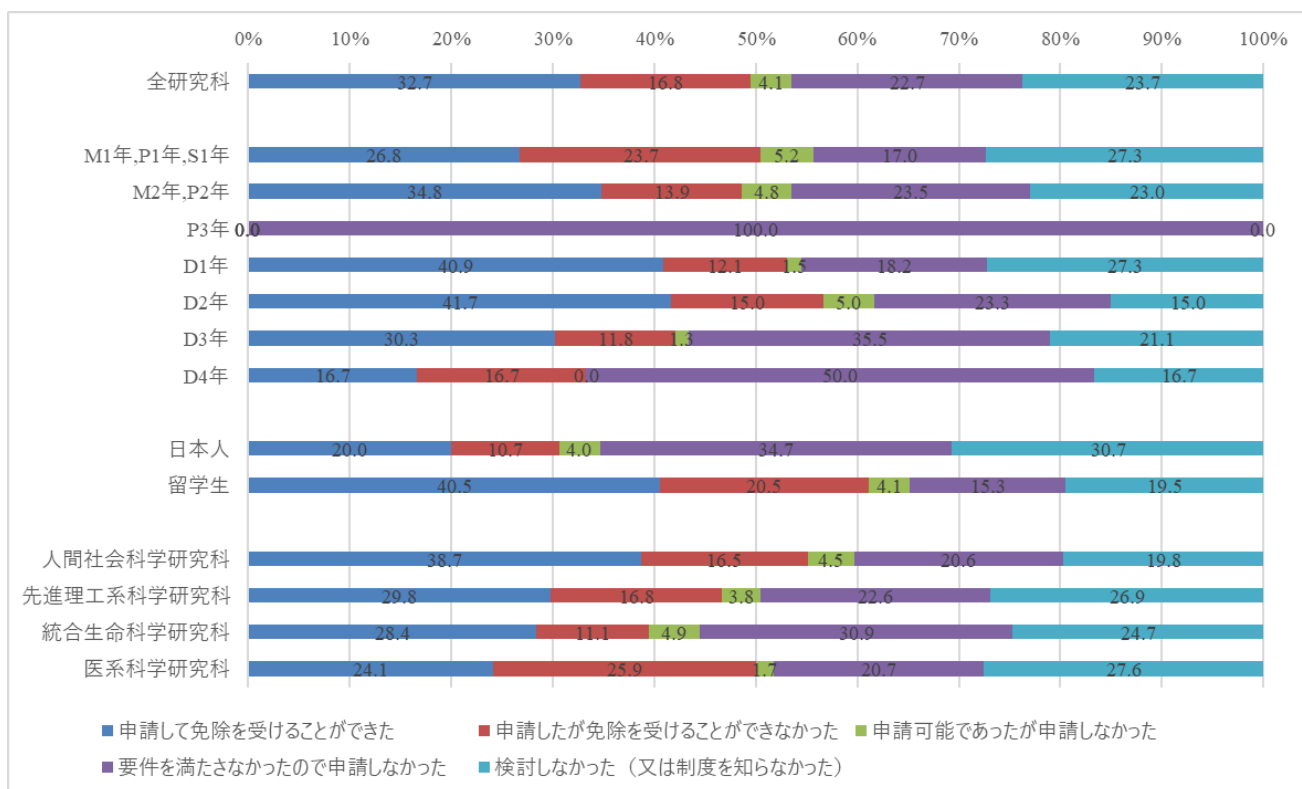
設問 13 コロナ禍以降で経済状況が悪化している原因は何ですか。(複数回答可)

自身の収入の減少(40%強)、食費光熱費等の生活費の増加(50~60%前後)を、経済状況の悪化の要因として認識している大学院生が多い。



設問 14 新型コロナウイルス感染症の影響による経済状況の悪化を理由に授業料免除や奨学金の申請を行いましたか。

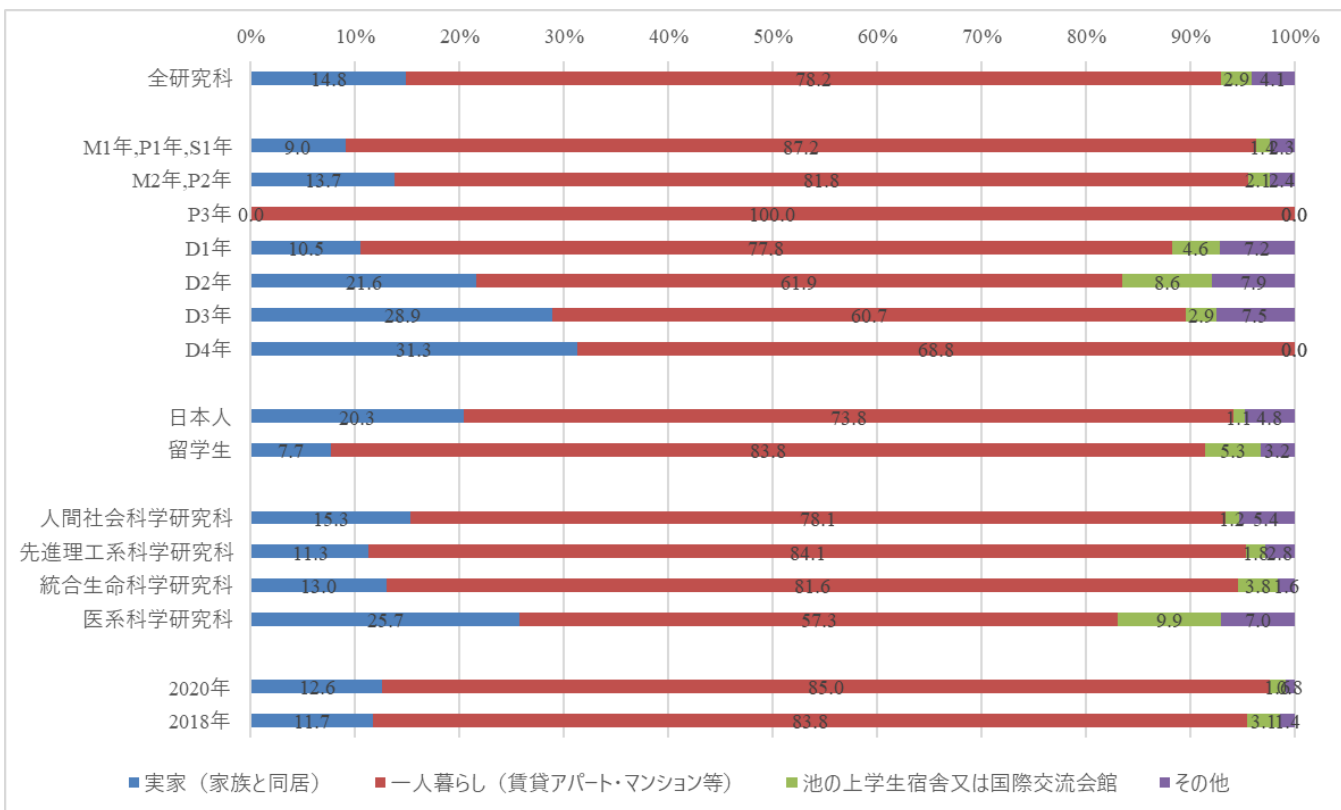
学部生に比して、申請して免除を受けることができた大学院生が多い(「申請して免除を受けることができた」と回答した学部生 13.1%, 大学院生 32.7%)。



7 住居環境

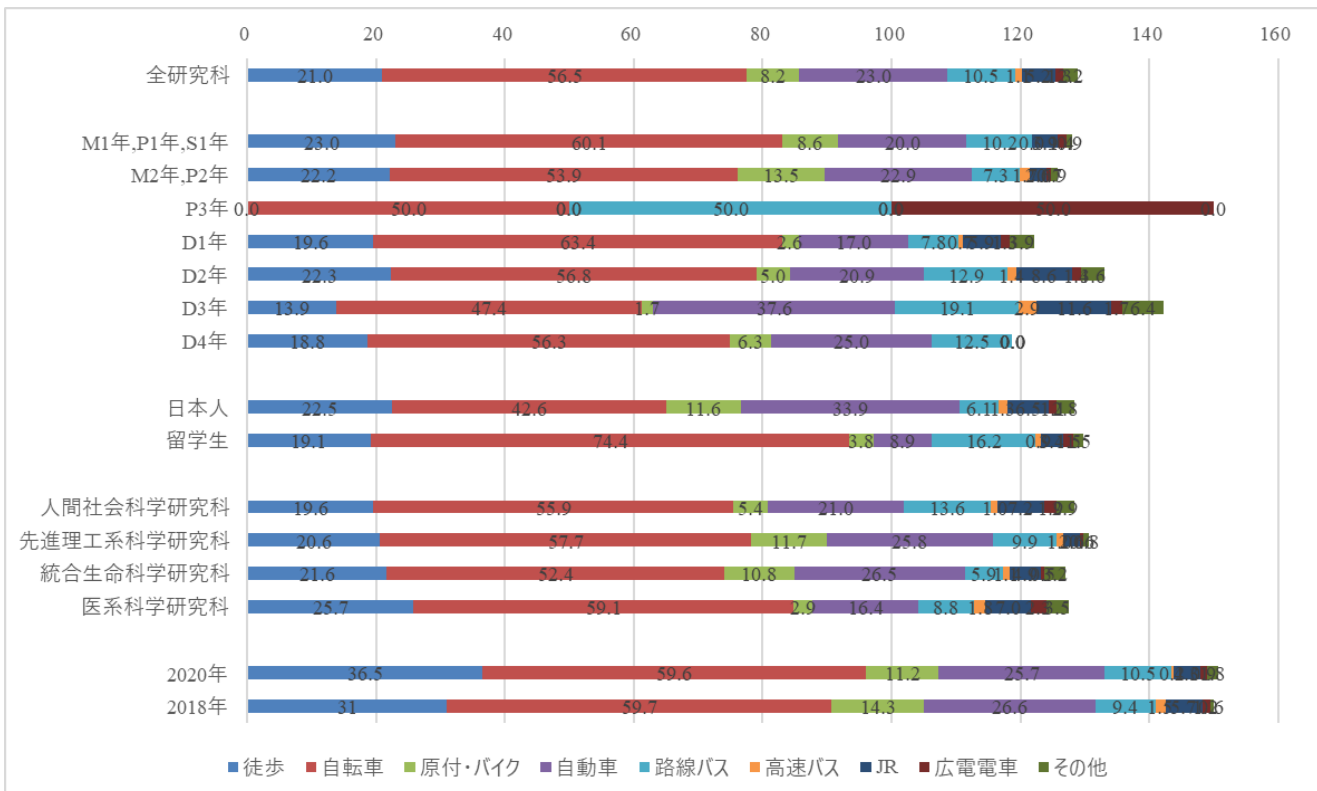
設問 15 居住形態を教えてください。

80%前後の大学院生が一人暮らしであることがわかる。



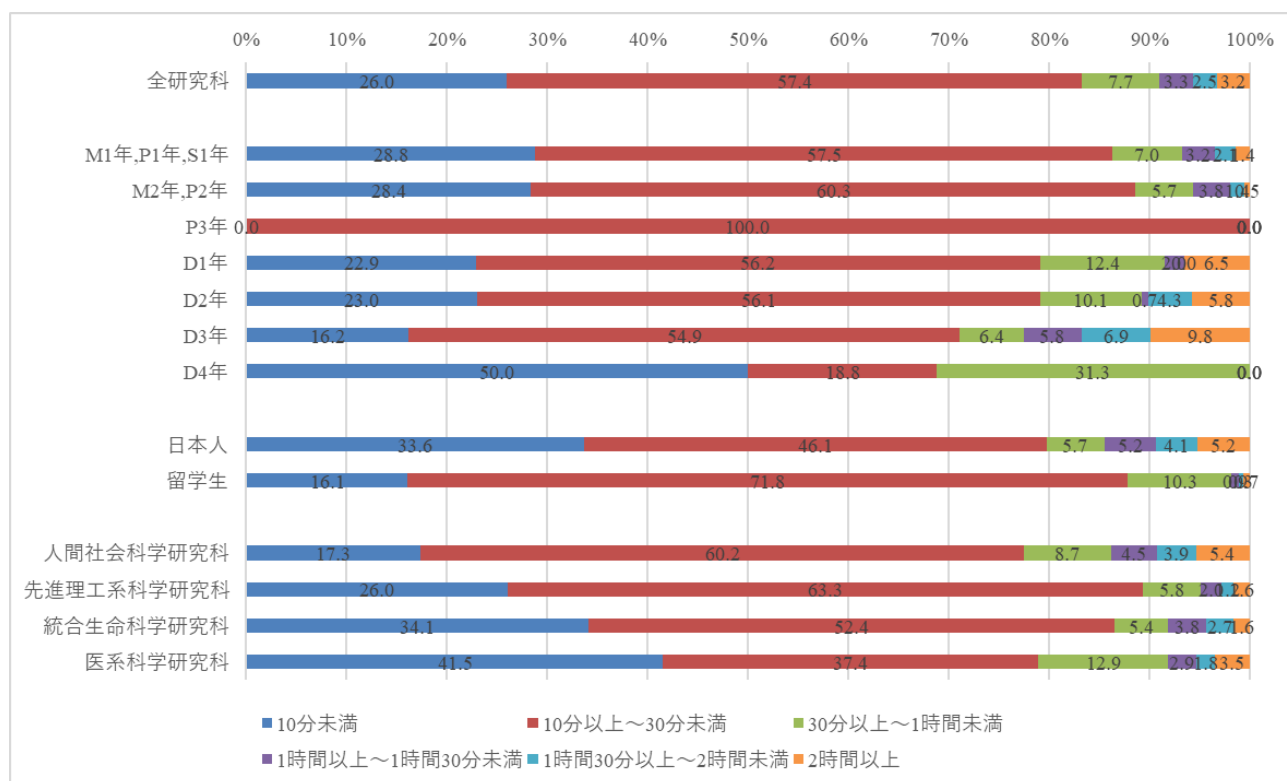
設問 16 主な通学方法を教えてください。（複数回答可）

50~60%前後の大学院生が自転車利用による通学をしていることがわかる。自動車利用者が 20%前後居る点は留意する必要がある。



設問 17 通学にかかる時間を教えてください。

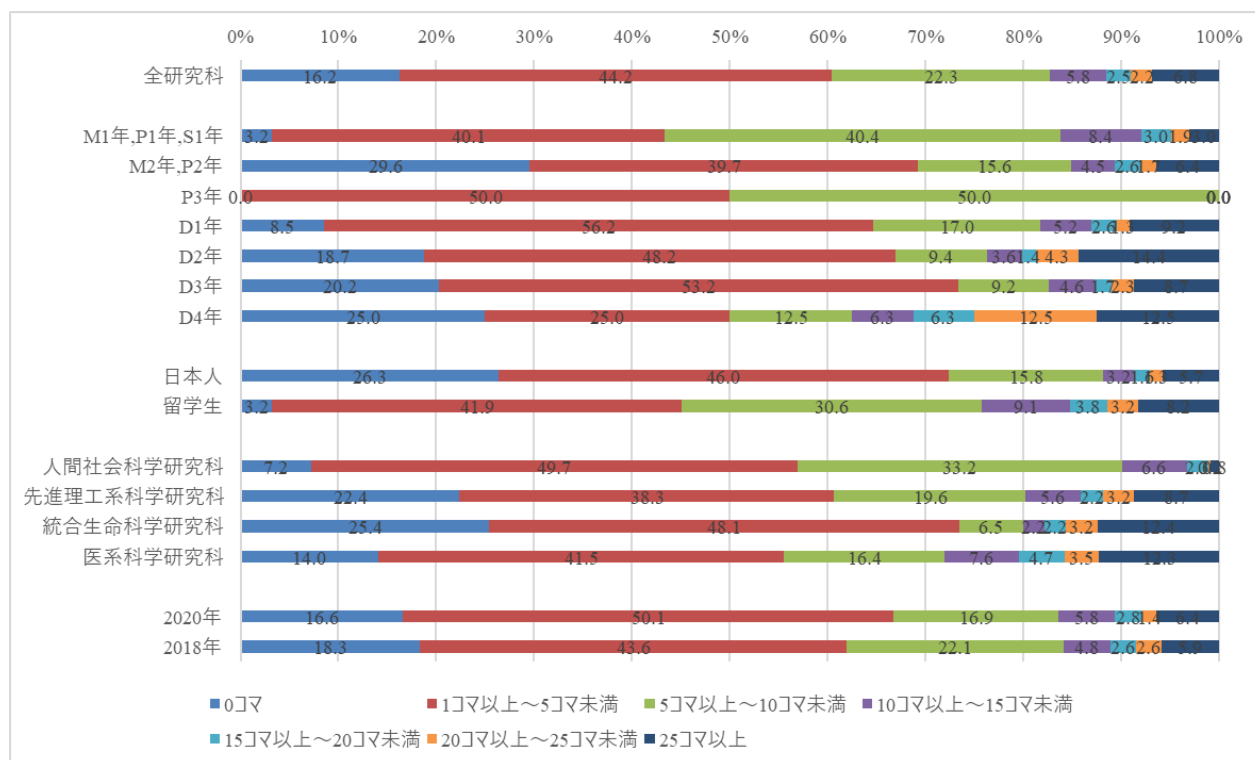
80%前後の大学院生が 30 分未満の通学時間であることがわかる。



8 学習状況

設問 18 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）の出席にあてていますか。

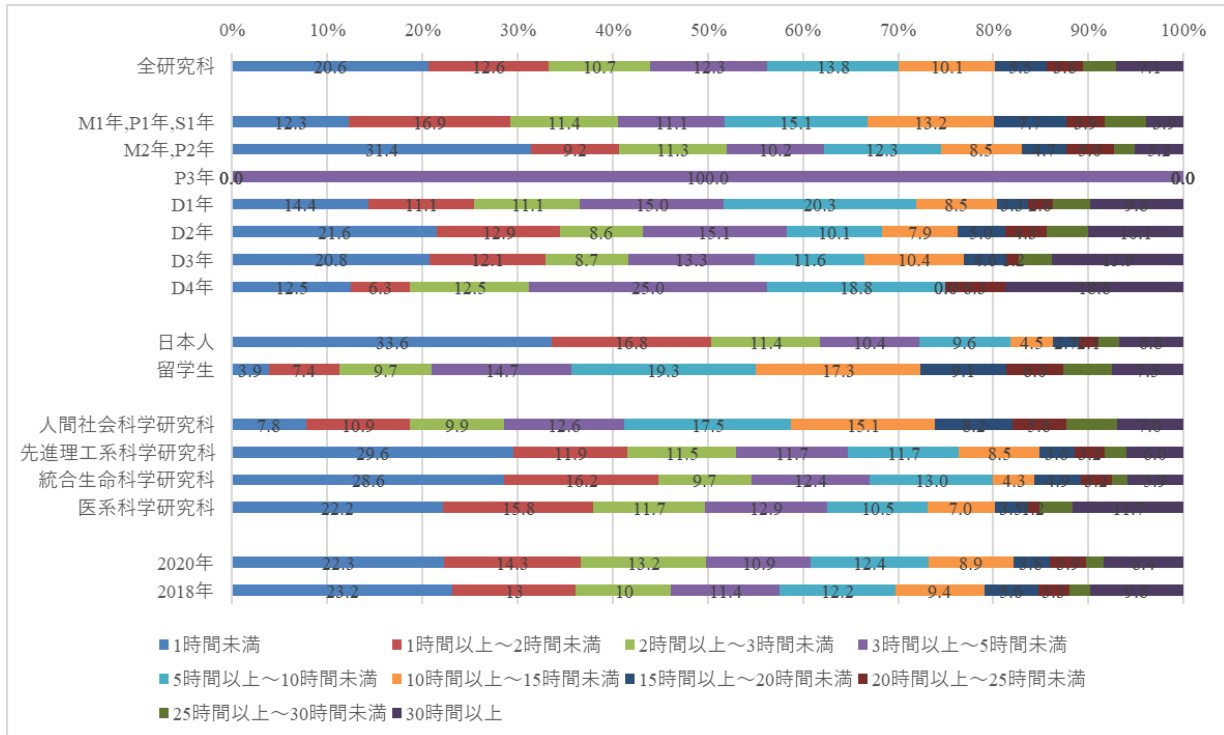
属性による差異はあるが、60%前後の大学院生が 1～5 コマの授業負担であることがわかる。



設問 19 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業（講義・演習・実験・実習若しくは実技）の課題、準備・復習などにあてていますか。

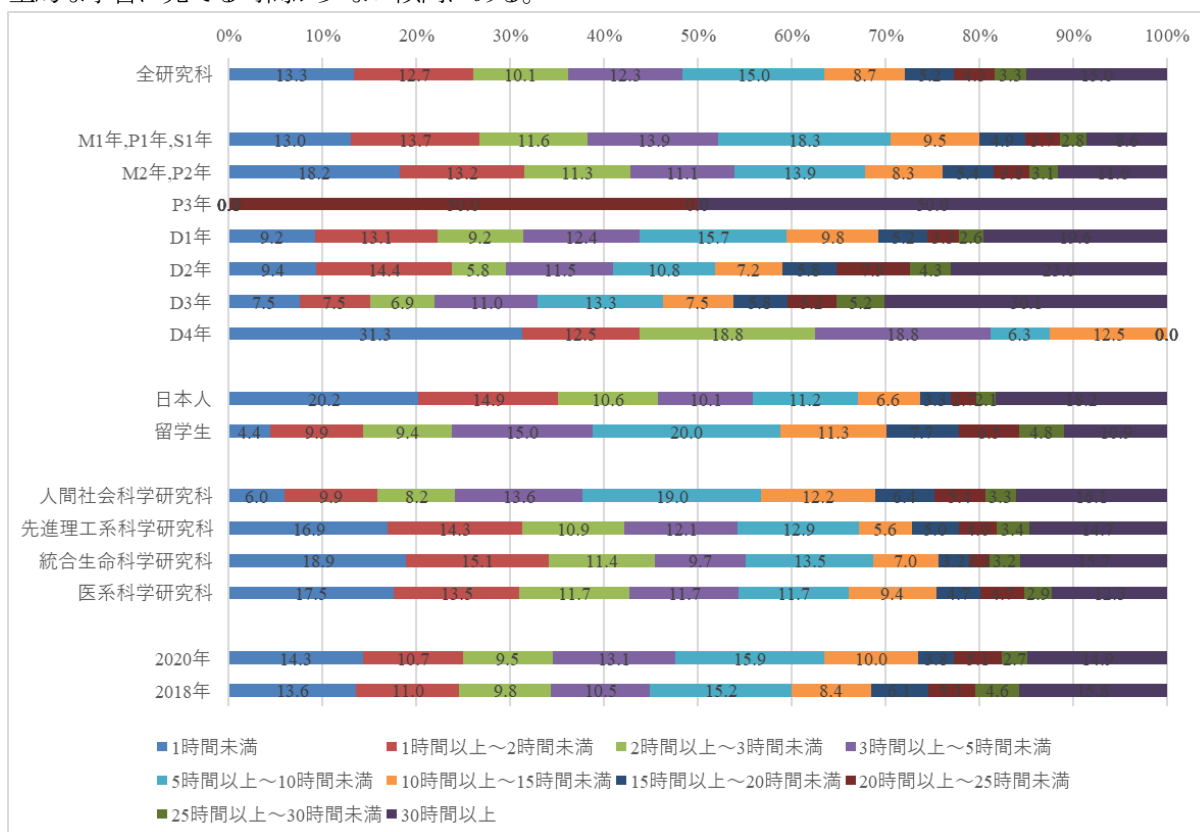
多くの研究科において、60%前後の大学院生は、2 時間以上の時間を授業に関連した課題や準備、復習に充てている。留学生の約 90%は、週に 2 時間以上の時間を授業に関連した課題や準備、復習に充てている。それに対して、週に 2 時間以上と回答した日本人大学院生は約 50%であり、留学生に比べて授業に関連した課題や準備、復習に充てる時間が少ない傾向にある。留学生は日本語という外国語を使って、課題や授業準備に取り組むためにより多くの時間と労力が必要であることが要因として考えられる。

先進理工系科学研究科と統合生命科学研究科においては、「1 時間未満」と答えた大学院生が約 30%いる点は留意をしておく必要があり、この数値が、どのような要因に拠るのかを検討する必要がある。



設問 20 授業期間中、平均して1週間でどれくらいの時間を授業とは関係のない自主的な学習にあてていますか。

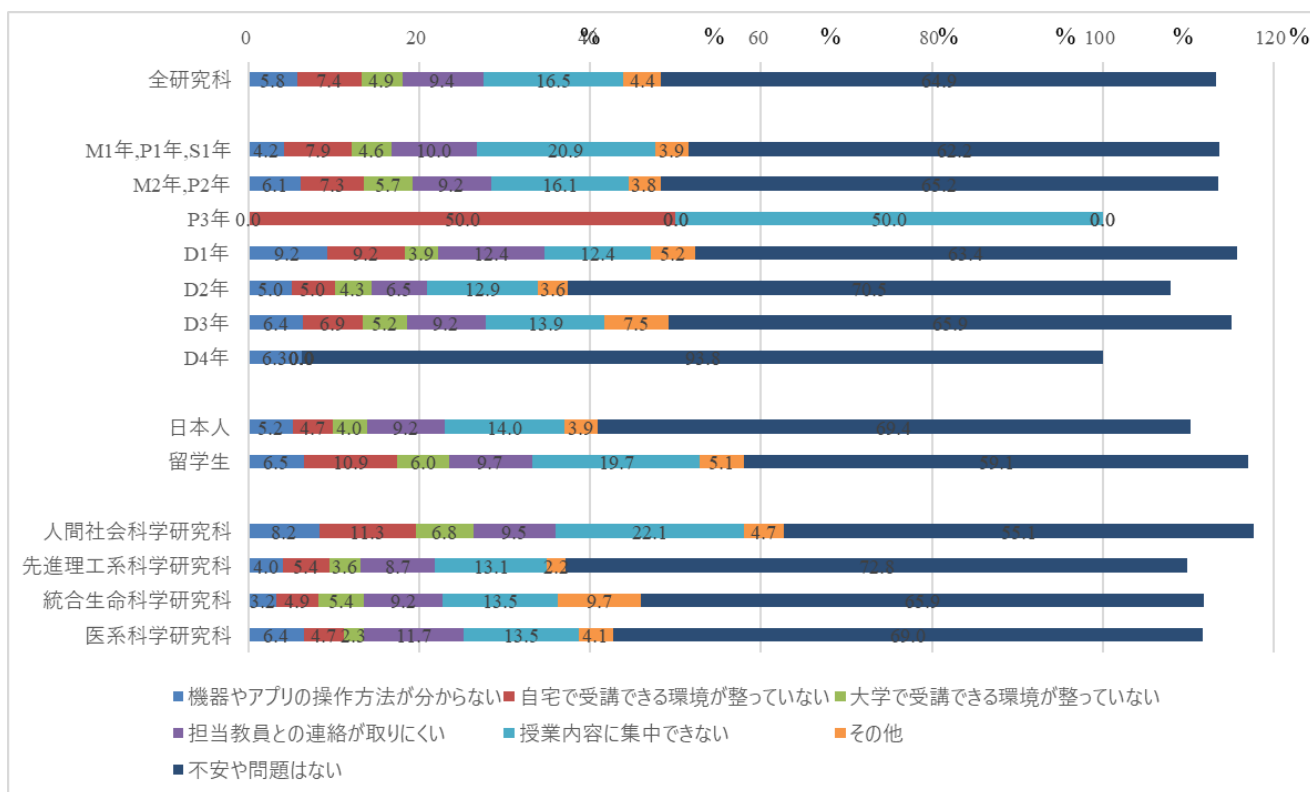
設問 19 の分布とある程度対応していると思われるような分布となっていることがわかる。多くの研究科において、70%以上の大学院生は、2 時間以上の時間を授業とは関係のない自主的な学習授業に関連した自主的な学習に充てている。同様に、留学生の約 90%は、週に 2 時間以上の時間を授業とは関係のない自主的な学習に充てている。それに対して、週に 2 時間以上と回答した日本人大学院生は約 50%であり、留学生に比べて自主的な学習に充てる時間が少ない傾向にある。



設問 21 オンライン授業の受講に対する不安や問題点はありませんか。(複数回答可)

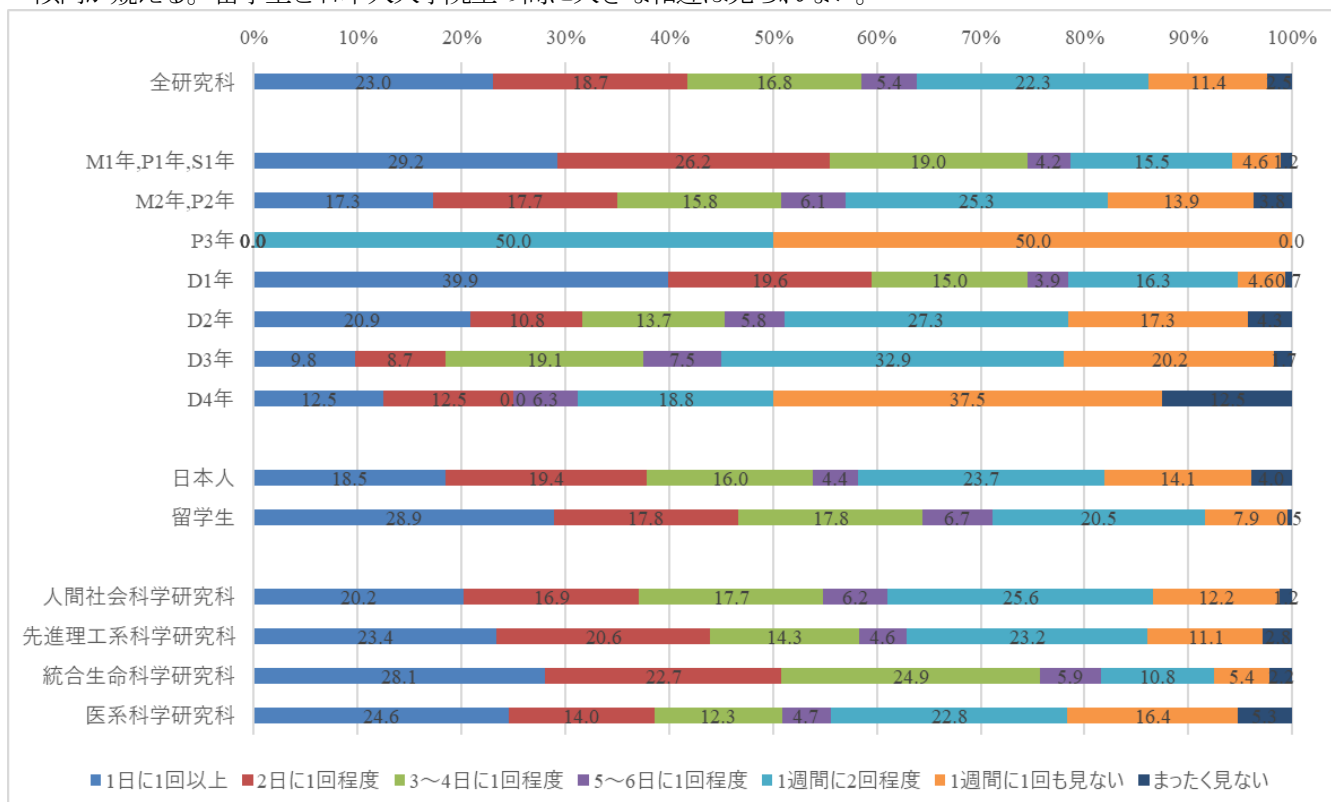
多くの研究科において、40%以上の大学院生はオンライン授業の受講に対する何らかの不安や問題点を感じている。そのうち、どの研究科においても20%以上の大学院生は「授業内容に集中できない」「担当教員との連絡が取りにくい」に不安を感じたと回答した。人間社会科学研究科の60%以上の大学院生はオンライン授業の受講に何らかの不安や課題を感じている。そのうち、30%以上の大学院生は、「授業内容に集中できない」「担当教員との連絡が取りにくい」という悩みを抱えていることがわかる。

日本人大大学院生と留学生の回答傾向に大きな違いはないが、「自宅で受講できる環境が整っていない」という問題点を感じた留学生はほぼ10人に1人がいる点は留意しておく必要がある。



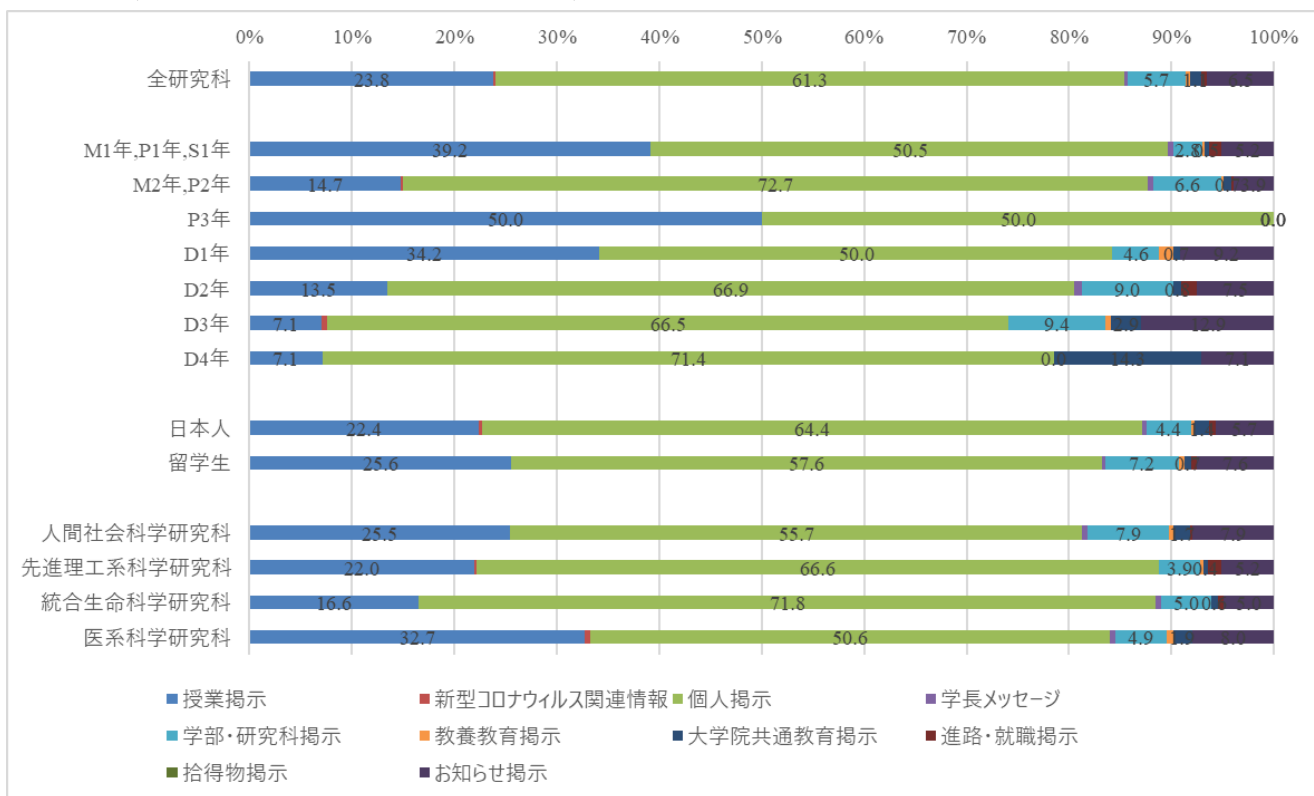
設問 22 My もみじを確認する頻度はどれくらいですか

多くの研究科において、40%前後の大学院生が、少なくとも2日に1回程度でMy もみじを確認していることがわかる。60%前後のM1とD1の大学院生は、少なくとも2日に1回程度でMy もみじを確認しており、その他の学年よりも頻繁に確認している傾向がある。学年の上昇につれて、もみじを確認する頻度が低くなる傾向が窺える。留学生と日本人大大学院生の間に大きな相違は見られない。



設問 23 My もみじで最も多く確認する掲示情報はどれですか。

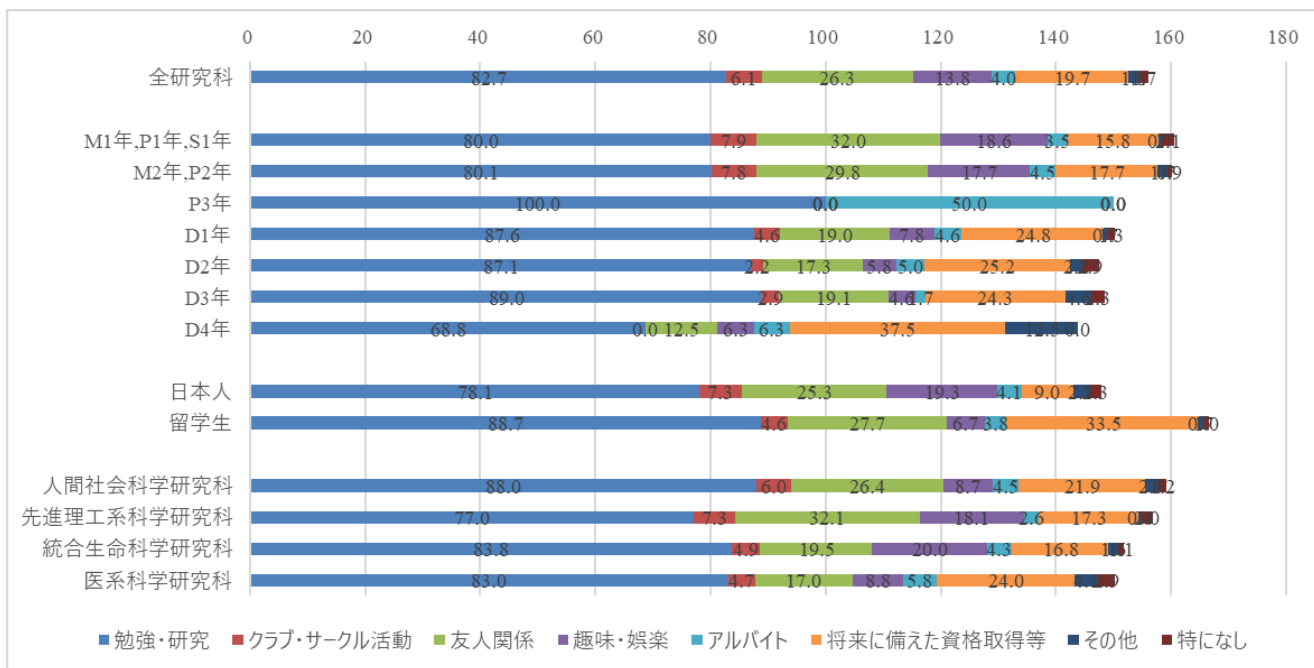
多くの研究科において、80%以上の大学院生が、授業掲示と個人掲示を最も多く確認していることがわかる。留学生と日本人大大学院生の間に大きな相違は見られない。「進路・就職掲示」を最も多く確認している大学院生の割合は、どの研究科においても高くない点は、留意をする必要がある。



9 学生生活の状況

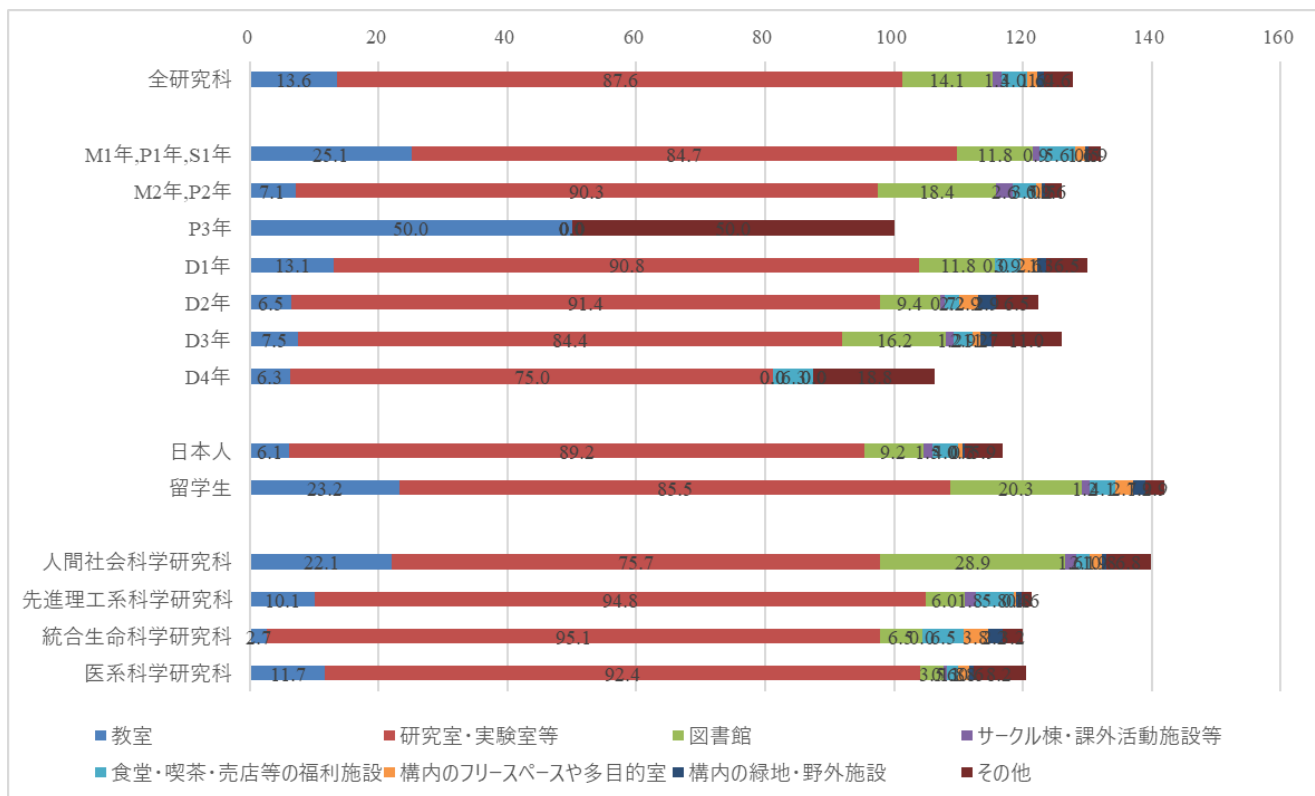
設問 24 大学生生活において特に大切にしているものは何ですか。(複数回答可)

大学院生になると、大切にしているものとして全体の 82.7%が「勉強・研究」と回答しており、学部生の 52.2%に比べかなり高くなっている。一方、「友人関係」26.3% (学部生 41.9%), 「趣味・娯楽」13.8% (学部生 25.9%) は学部生より低くなっており、研究に比重を置いた生活となっていることが推察される。また、留学生においては「将来に備えた資格取得等」を大切に考えているという回答が日本人学生よりかなり多い。



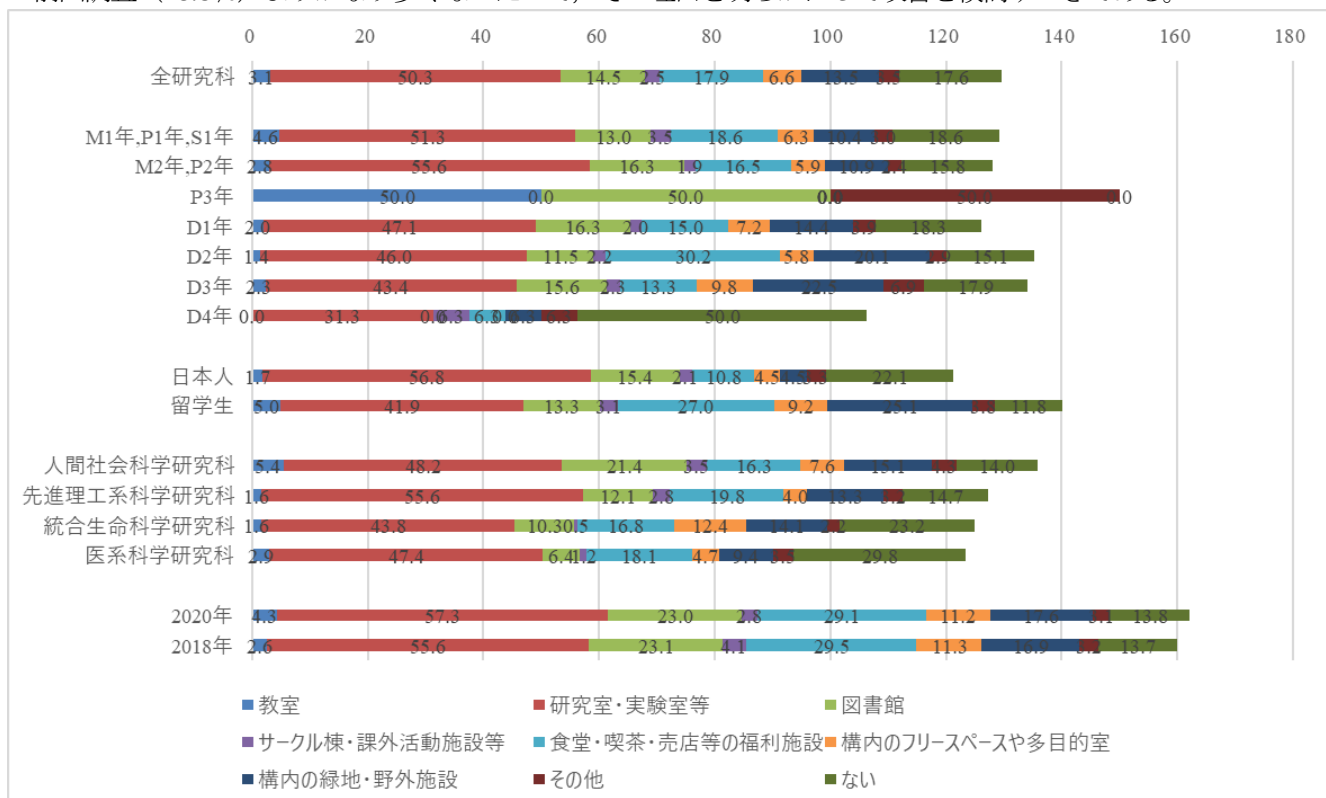
設問 25 大学構内の滞在時間のうち、多く滞在している場所はどこですか。(複数回答可)

大学内で多く滞在している場所を見てみると、全体では「研究室・実験室等」(87.6%)、「図書館」(14.1%)、「教室」(13.6%)の順である。「研究室・実験室等」での滞在が、他に比べ圧倒的に長いことがうかがえる。また、人間社会科学研究科では、他の研究科と比べ、「研究室・実験室等」での滞在時間は短い、「教室」と「図書館」には比較的によく滞在している。



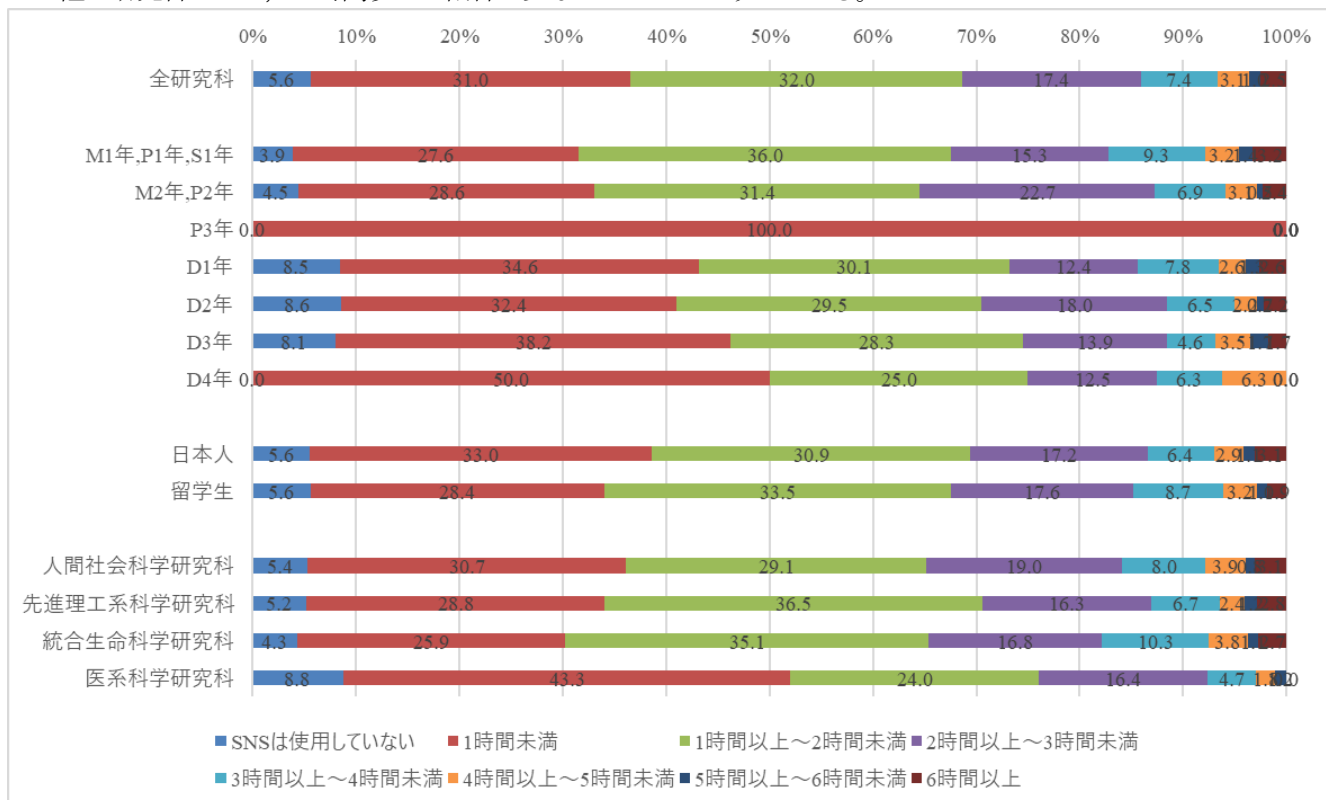
設問 26 大学構内にくつろいで過ごせる場所がありますか。(複数回答可)

大学構内でくつろいで過ごせる場所は、全体では50.3%が「研究室・実験室等」,17.9%が「食堂・喫茶・売店等の福利施設」と回答している。大きな課題として、くつろげる場所がないという回答が17.6%も存在し、前回調査(13.8%)よりかなり多くなったので、その理由を明らかにして改善を検討すべきである。



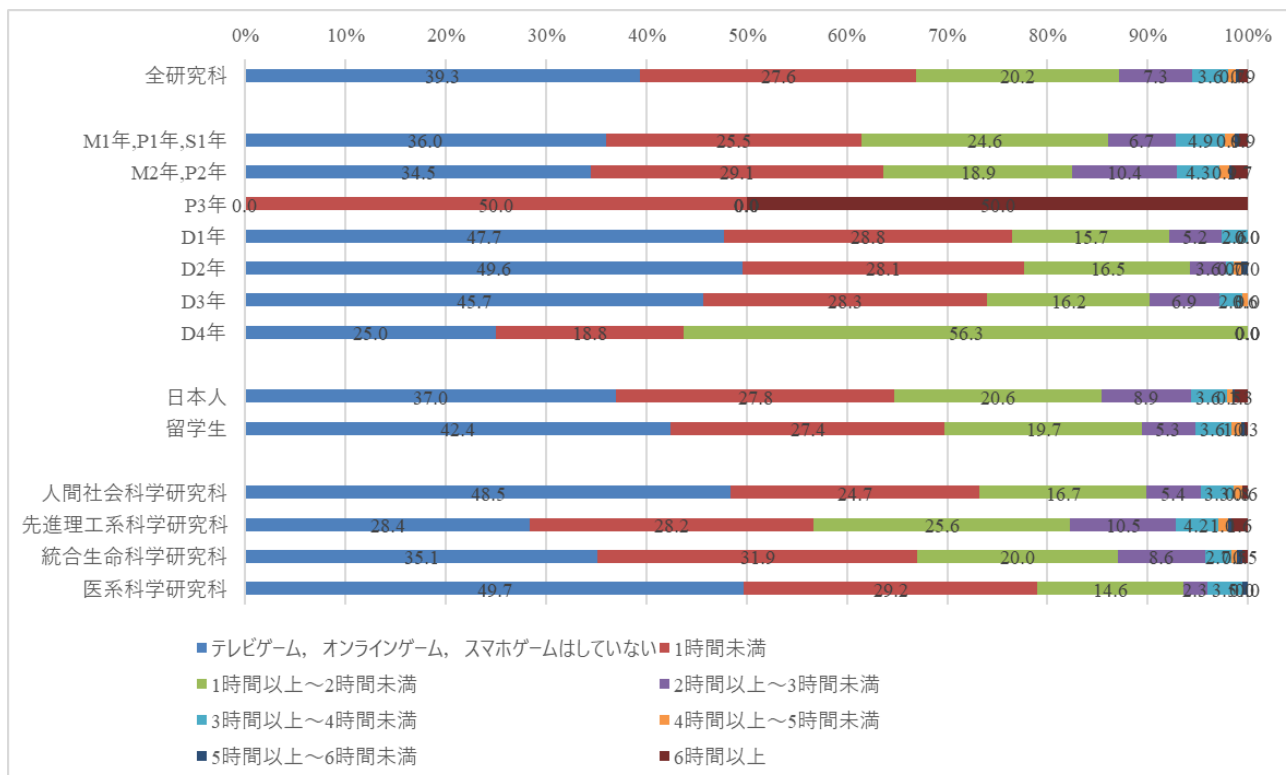
設問 27 Facebook・Instagram・LINE・Twitter 等の SNS (Social Network Service) を 1 日でどれくらいの時間使用していますか。

全体として、SNS を「使用していない」大学院生は 5.6%であり、1 時間未満は 31%、1～2 時間は 32%、2～3 時間は 17.4%、3 時間以上は 14%であった。1 時間以上の大学院生は 63.4%であり、学部生（80%）に比べ、1 日に SNS に費やしている時間が少ないことがわかる。研究科別から見ると、医系科学研究科（47.9%）が他の研究科と比べ、1 時間以上の割合が少なかったことがうかがえる。



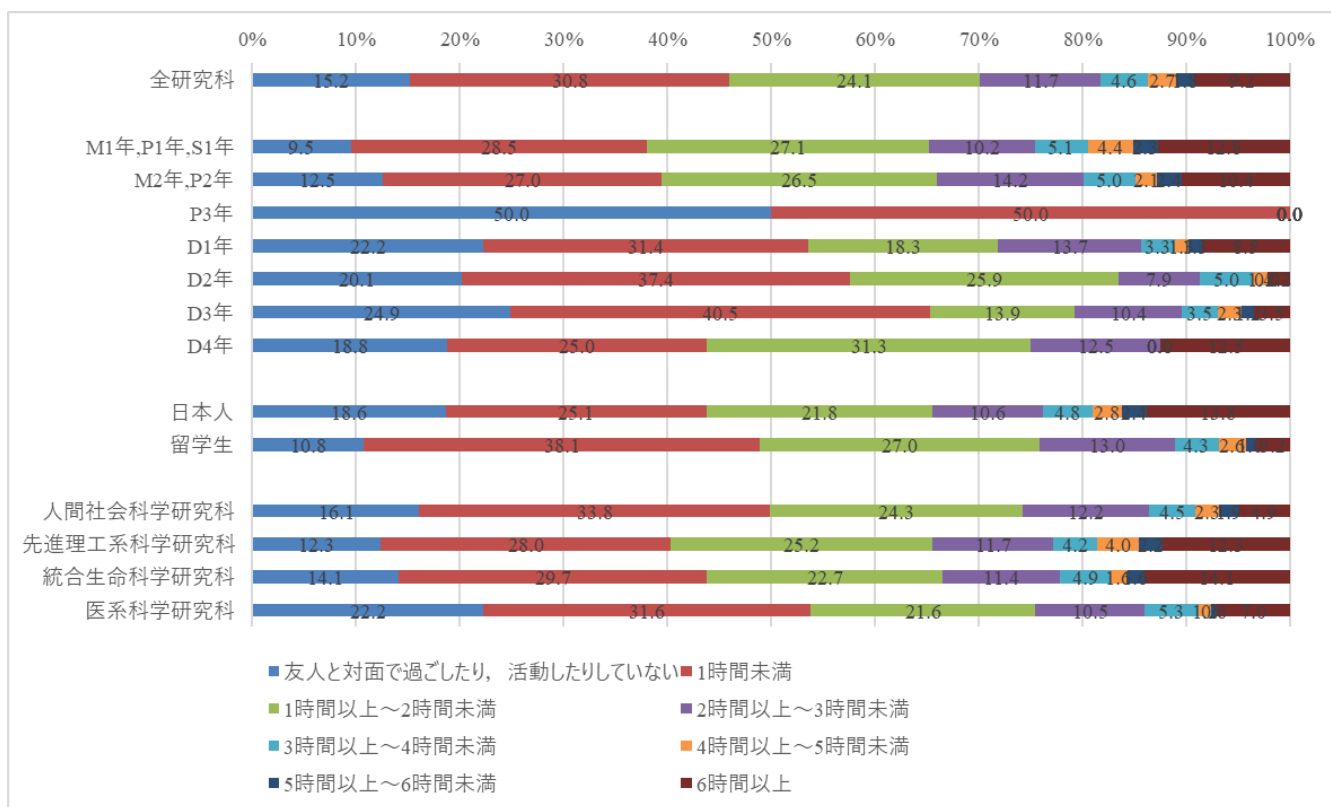
設問 28 平均して 1 日に、テレビゲーム、オンラインゲーム、スマホゲームにどれくらいの時間をあてていますか。

全体として、「テレビゲーム、オンラインゲーム、スマホゲームをしていない」大学院生は 39.3%、1 時間未満は 27.6%であり、1～2 時間は 20.2%、2～3 時間は 7.3%、3 時間以上は 5.6%であった。1 時間以上の大学院生は 33.1%であり、学部生（44.9%）と比べて時間が短かったが、1 日のかなりの時間をゲームに費やしているともいえる。



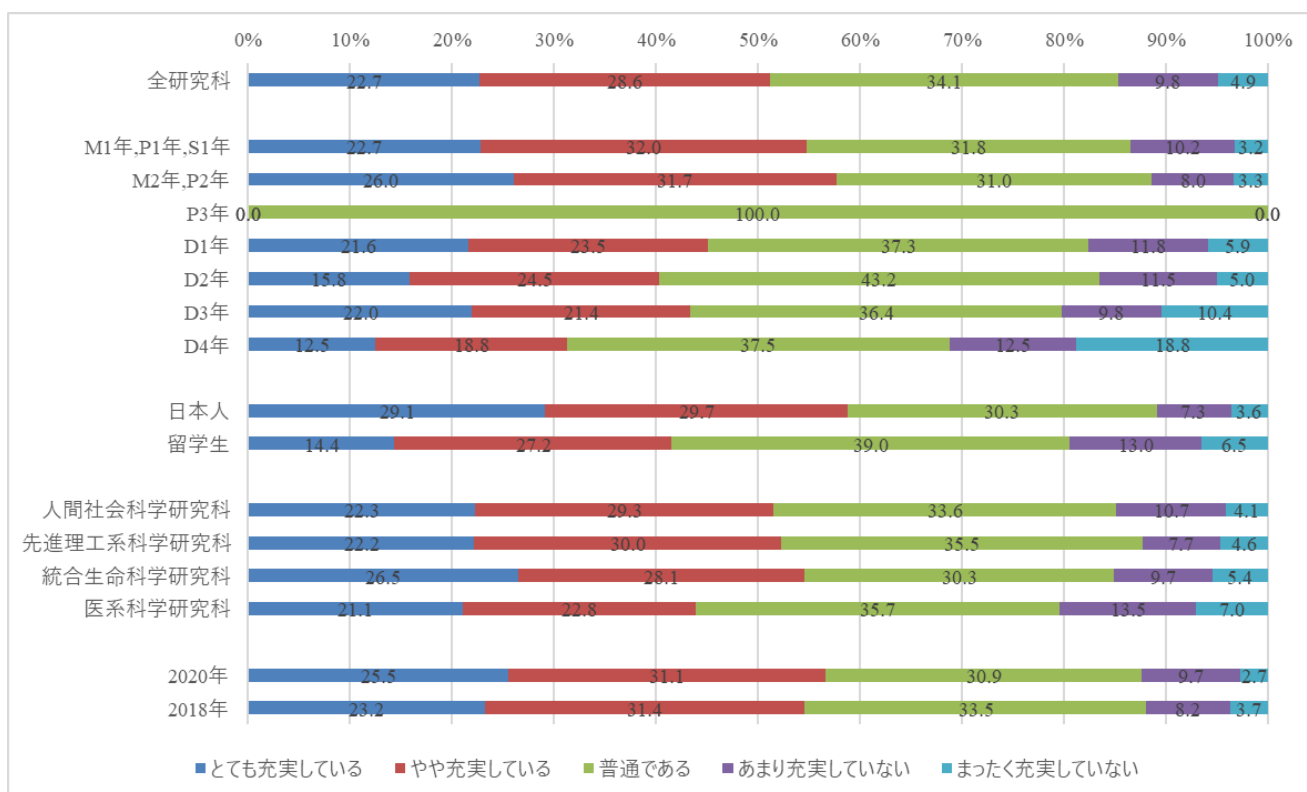
設問 29 平均して1日に、どれくらい友人と対面で過ごしたり、対面で一緒に活動したりしていますか。

全体では、「1時間未満」と回答した大学院生が多く、30.8%であった。次に多かったのが、「1時間以上～2時間未満」(24.1%)である。一方、「友人と対面で過ごしたり、活動したりしていない」と回答した大学院生は全体で15.2%である。



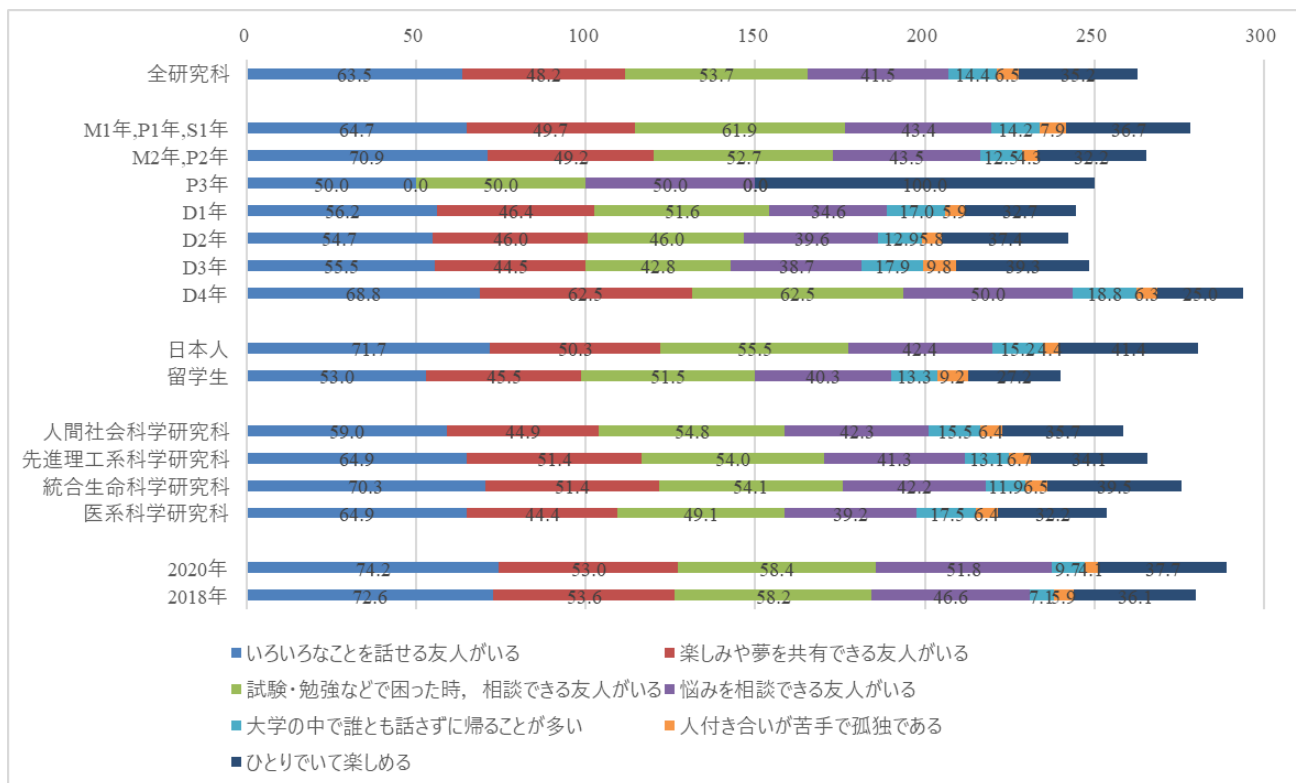
設問 30 授業以外の学生生活を充実して過ごしていますか。

全体では、「普通である」と回答した大学院生が多く(34.1%)、全研究科で同様の結果である。全体の半数の大学院生が、「とても充実している(22.7%)」,又は「やや充実している(28.6%)」と回答している。一方、「まったく充実していない」と回答した大学院生は4.9%であったが、D4生では18.8%と高く、充実していないと感じている大学院生が多い傾向である。



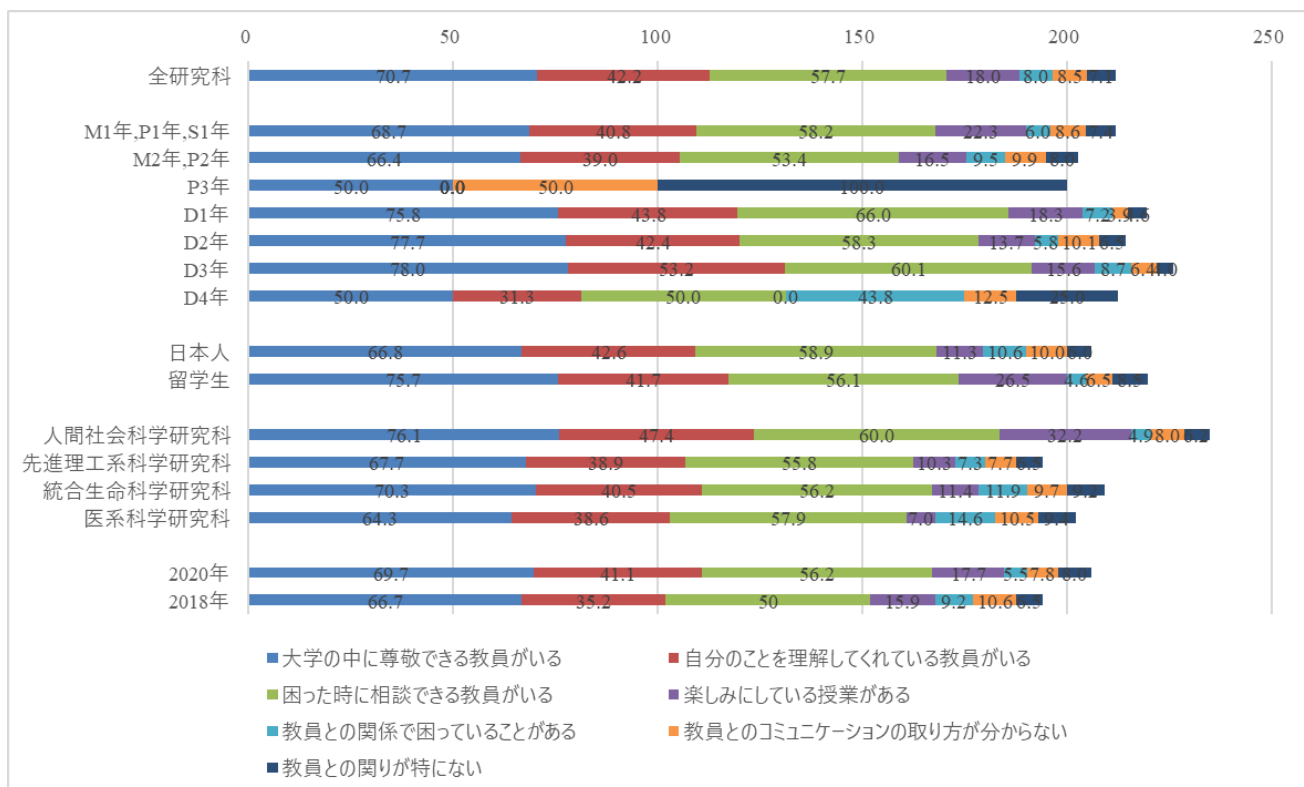
設問 31 友人についてお尋ねします。(複数回答可)

全体として、大学院生の 63.5%は、「いろいろなことを話せる友人がいる」と回答したが、前回調査 (74.2%) と比較して低くなっている。一方、「人付き合いが苦手で孤独である」と回答する大学院生は 6.5%、「大学の中で誰とも話さずに帰ることが多い」は 14.4%で、前回調査と比較して孤立傾向にある大学院生が増加している。



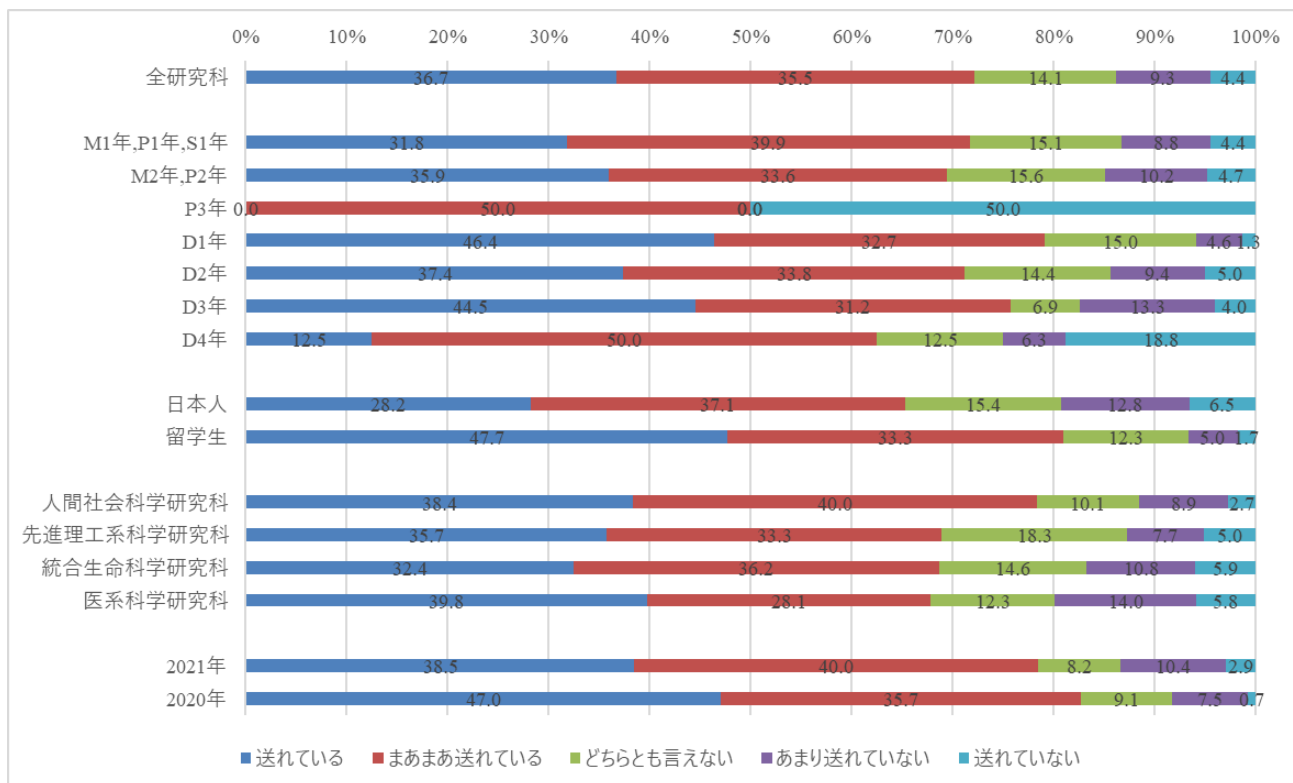
設問 32 教員についてお尋ねします。(複数回答可)

「大学の中で尊敬できる教員がいる」と回答した大学院生は、全体の約 70%となっており、学部生の 36%と比較して高い結果である。一方、「教員との関りが特にない」と回答する大学院生は 7.1%であり、学部生の約 40%と比較して低い結果である。大学院生では、研究活動などで教員と関わる機会が学部生と比較して多い特徴が表れている。



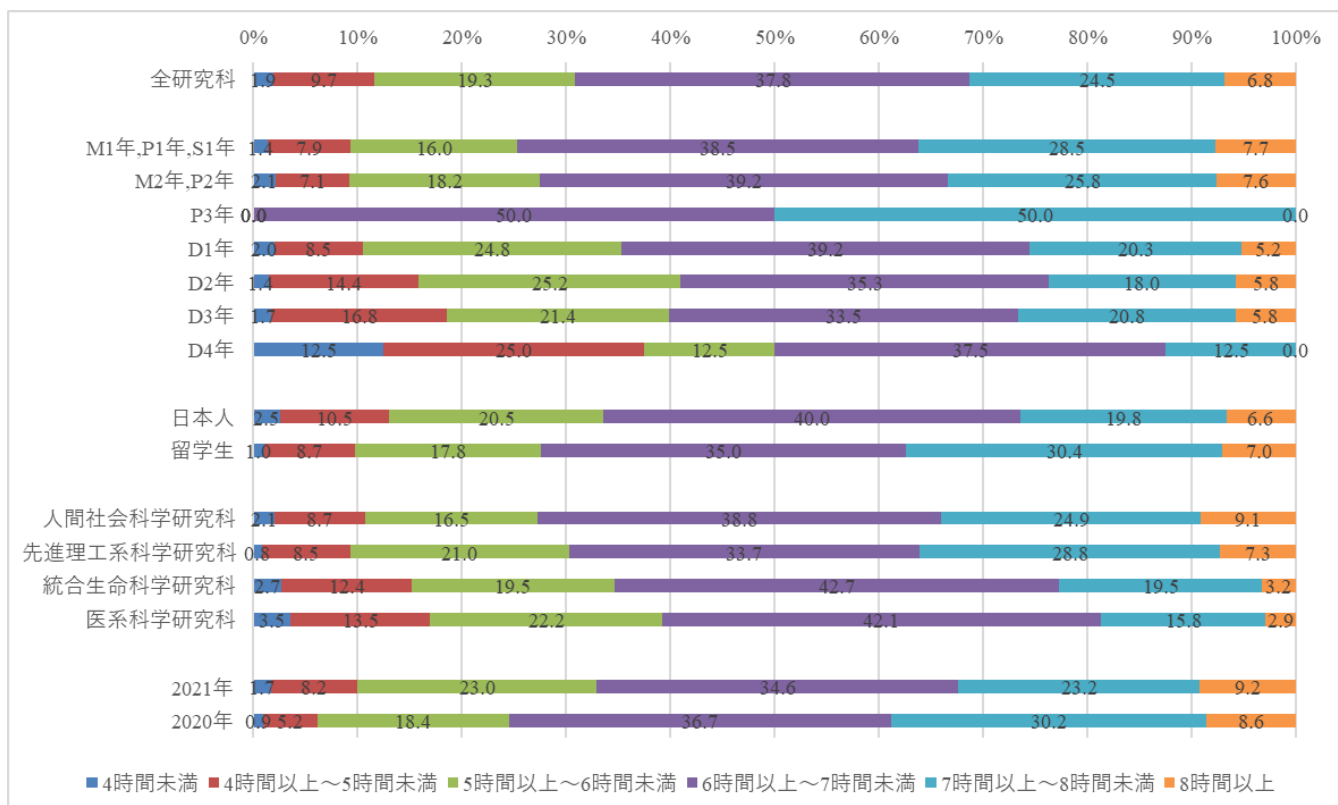
設問 33 現在、規則正しい生活が送れていますか。

全体では、「送れている」と回答した大学院生が 36.7%と多く、70%以上の学生が「送れている (36.7%)」「まあまあ送れている (35.5%)」と回答している。全学年で同様の結果である。一方、全体として「あまり送れていない」は9.3%、「送れていない」は4.4%であったが、D4生では増加している。



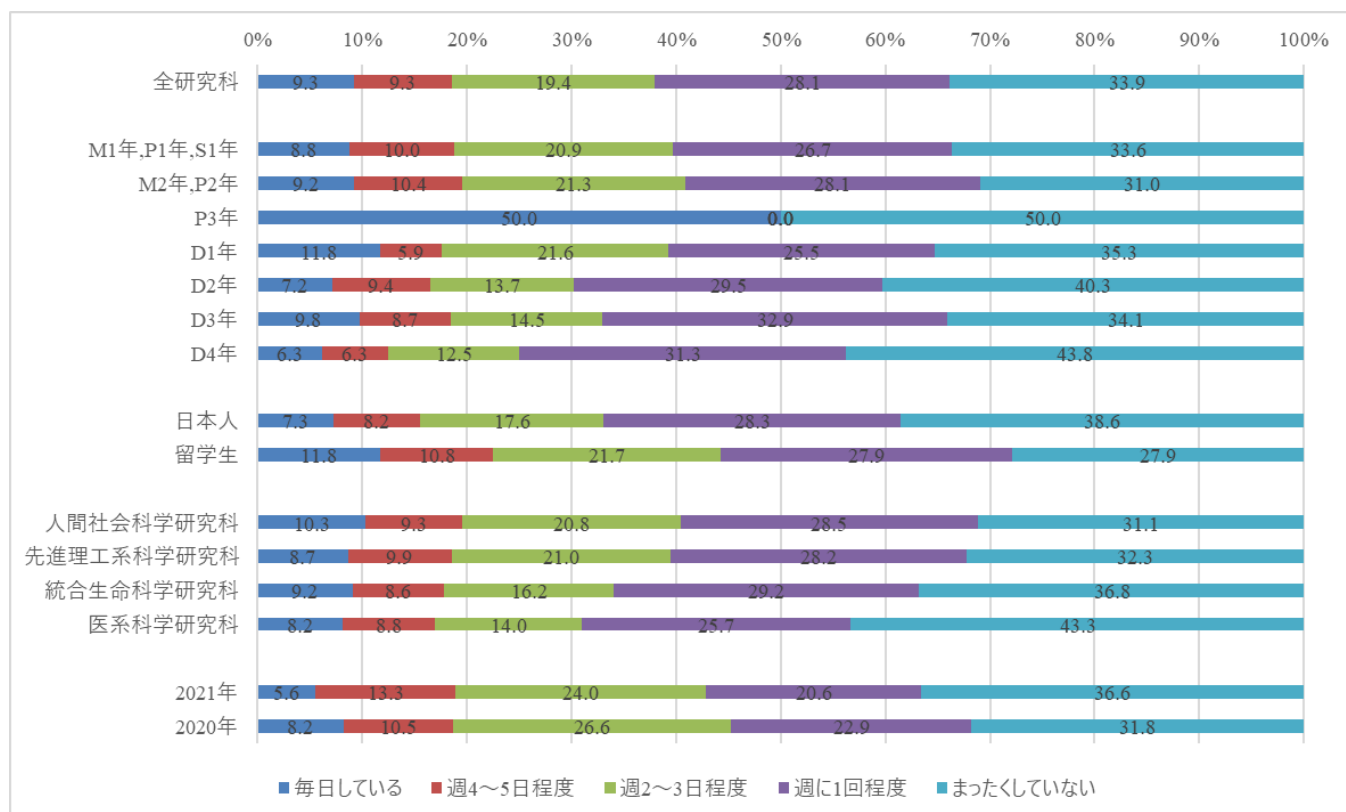
設問 34 現在の平均睡眠時間は何時間くらいですか。

全体として、「6時間以上～7時間未満」と回答した大学院生が37.8%と多い。一方、D生においては、「4時間未満」、「4時間以上～5時間未満」と回答する学生の割合がM生と比較して高く、睡眠時間が不足している学生を多く認める。



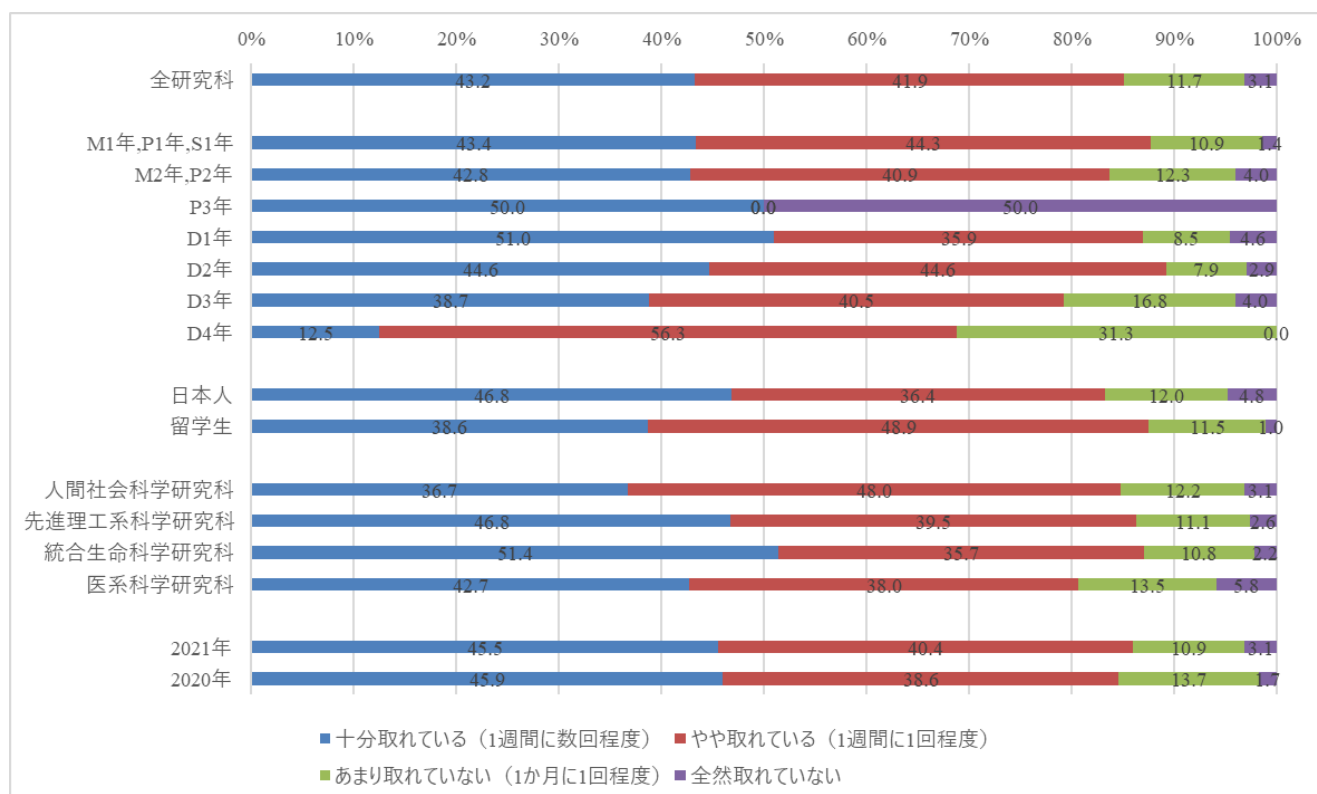
設問 35 現在、定期的に運動（1日30分程度）をしていますか。

全体として、週に1回以上の定期的な運動をしていると回答した大学院生は約70%、「まったくしていない」と回答した学生は30%であり、学部生と同様の結果であった。「毎日している」と回答した大学院生は9.3%であり、前回調査と（5.6%）と比較して高く、毎日の運動習慣がある学生が増加している。



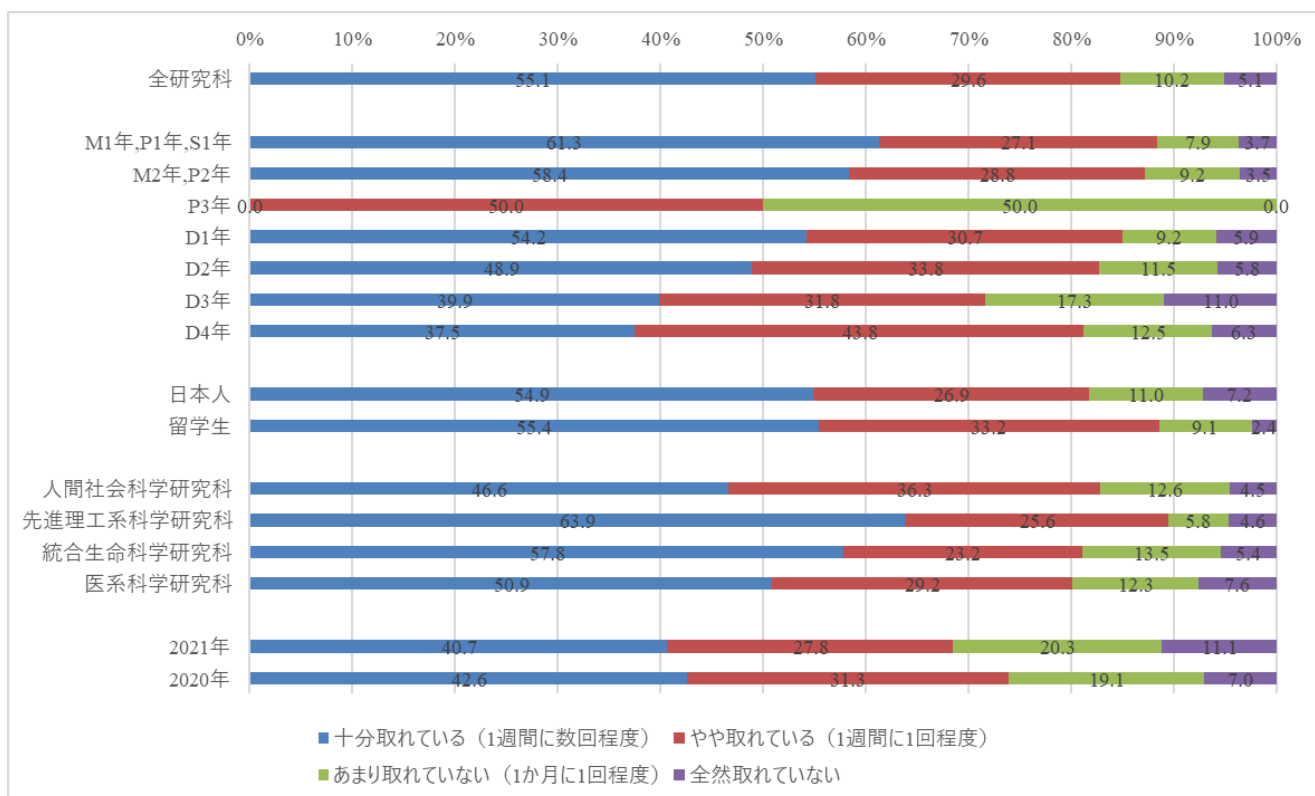
設問 36 今年度、指導教員やチューターとコミュニケーションが取れていたと感じますか。

大学院生では、「十分取れている」と回答した大学院生が43.2%と最も多く、学部生（13.5%）と比較して、コミュニケーションが十分取れていると感じている大学院生が多かった。80%以上の大学院生が、「十分取れている」、「やや取れている」と回答しており、大学院生では研究活動等を通じて指導教員やチューターとコミュニケーションをとる機会が多くなっていると考えられる。



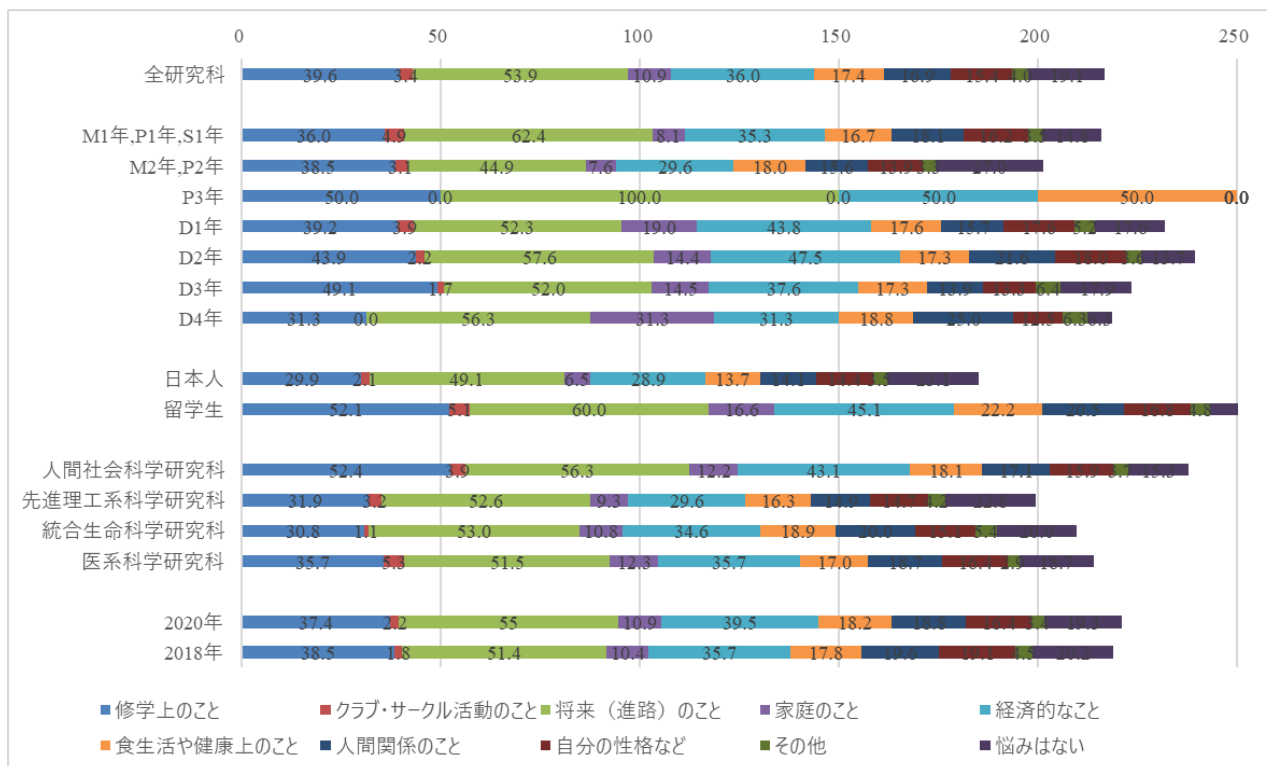
設問 37 今年度、同級生や友人とコミュニケーションが取れていたと感じますか。

全体として、大学院生は、「十分取れている」が55.1%、「やや取れている」が29.6%と多く、学部生の結果と同様に、前回調査と比較して増加していた。コロナに対する行動制限の緩和が影響していると考えられる。



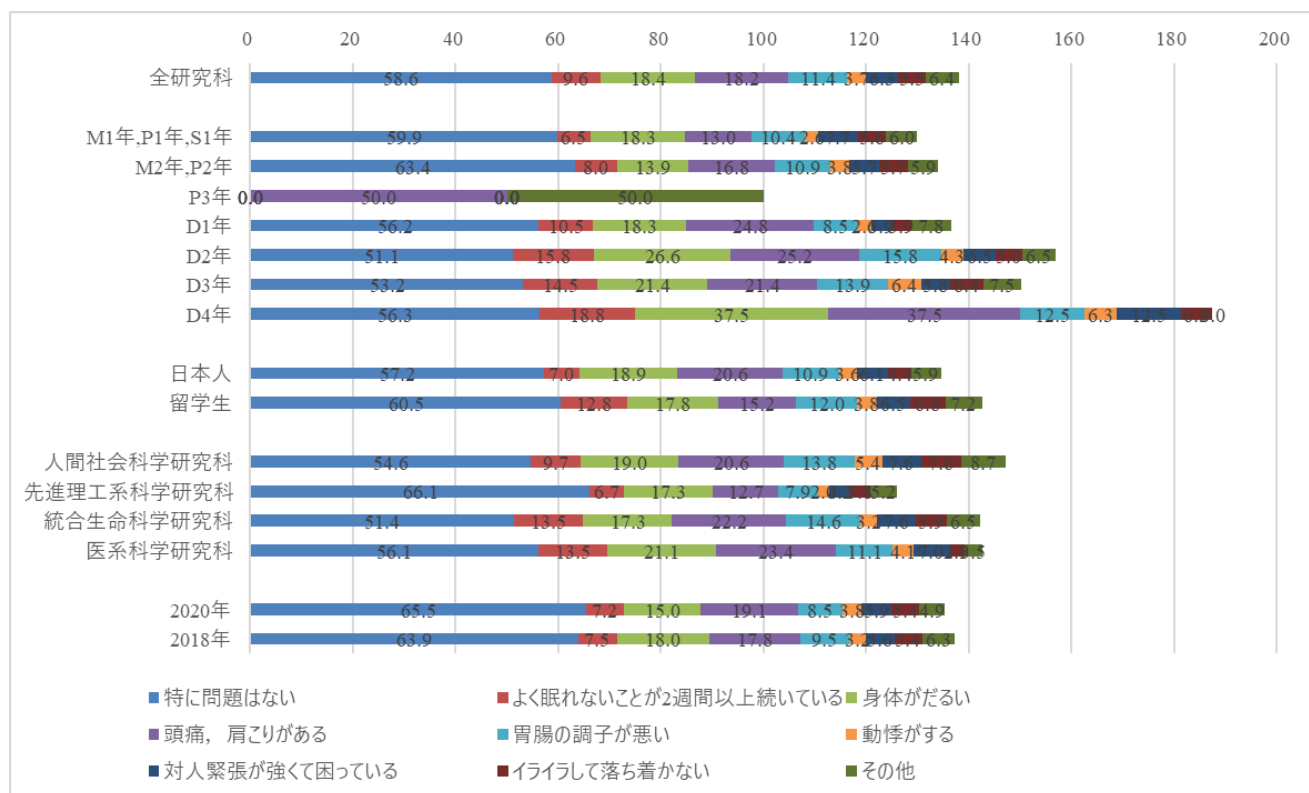
設問 38 学生生活の中で悩みがありますか。(複数回答可)

大学院生において、学生生活の悩みとして「将来（進路）のこと」と回答した学生が最も多く、全体として53.9%であり、学部生と同様の結果であった。学部生と比較して、「経済的なこと」と回答した大学院生の割合が高く、特に留学生では高くなっている。



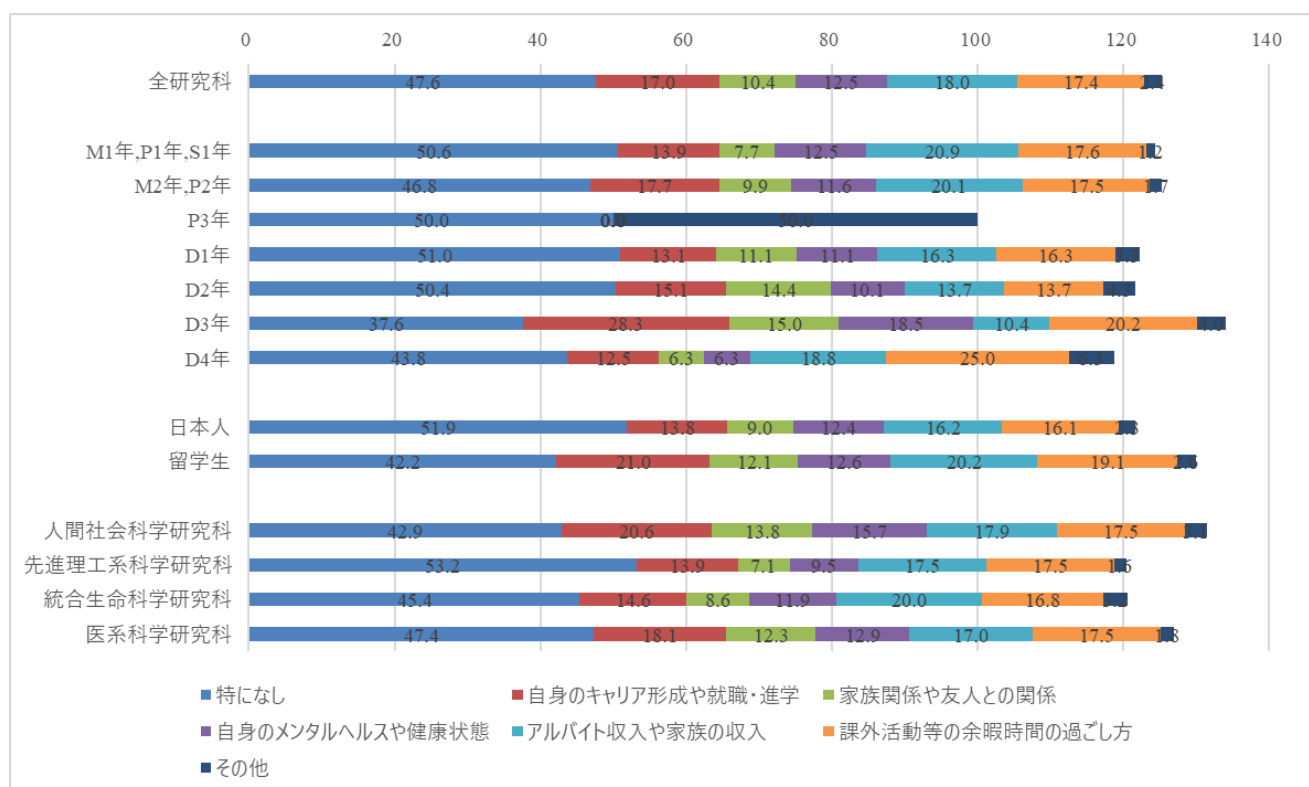
設問 39 現在の健康状態はどうか。(複数回答可)

心身健常者数が前回(2020年度 65.5%) および前々回(2018年度 63.9%)のそれらに比べて減少している(58.6%) ような傾向が認められ、継続注視が必要であると思われる。



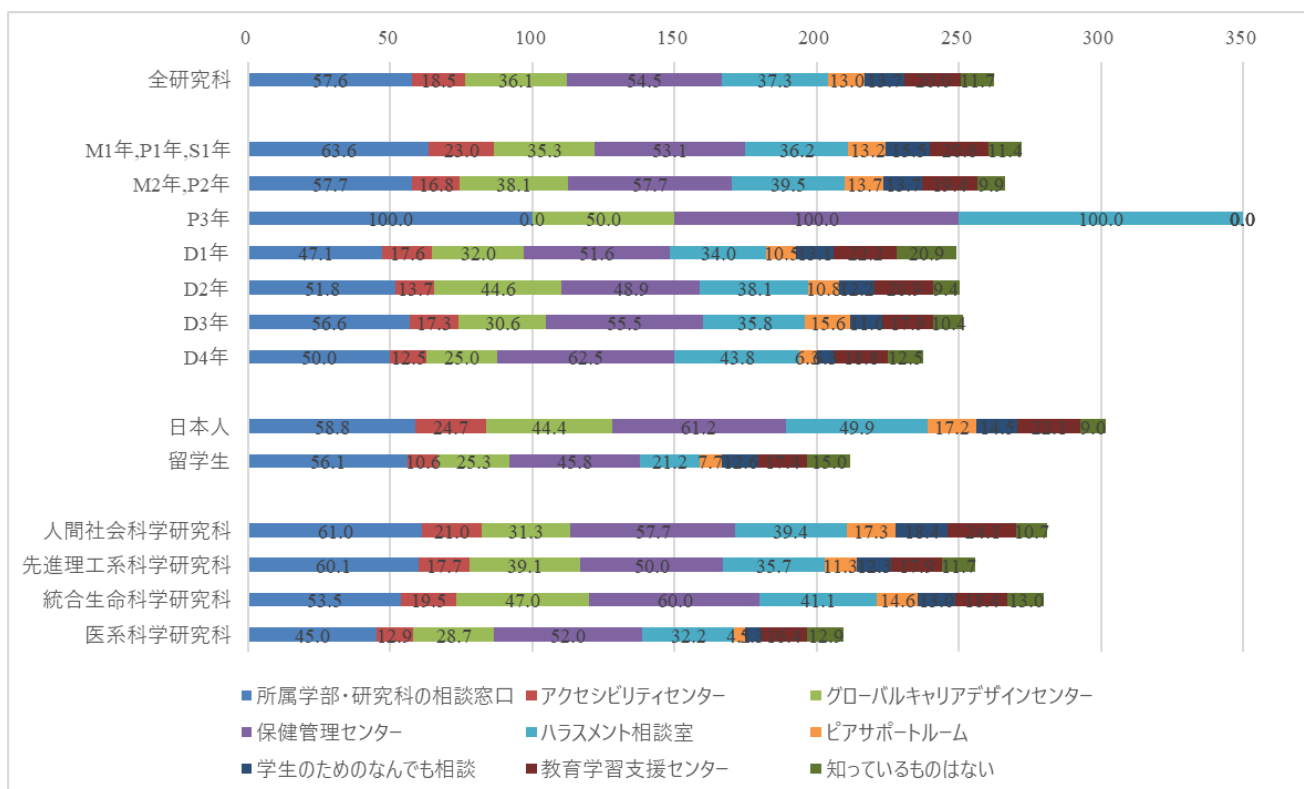
設問 40 新型コロナウイルス感染症の影響による様々な制限により、あなたの生活の中で悪影響を受けたことがありますか。(複数回答可)

77.7%の大学院生が何らかの悪影響を受けている所見が得られている。アフターコロナによる自然改善もある程度想定されるものの、キャリア形成や経済面を始めとした継続サポートが望まれる。



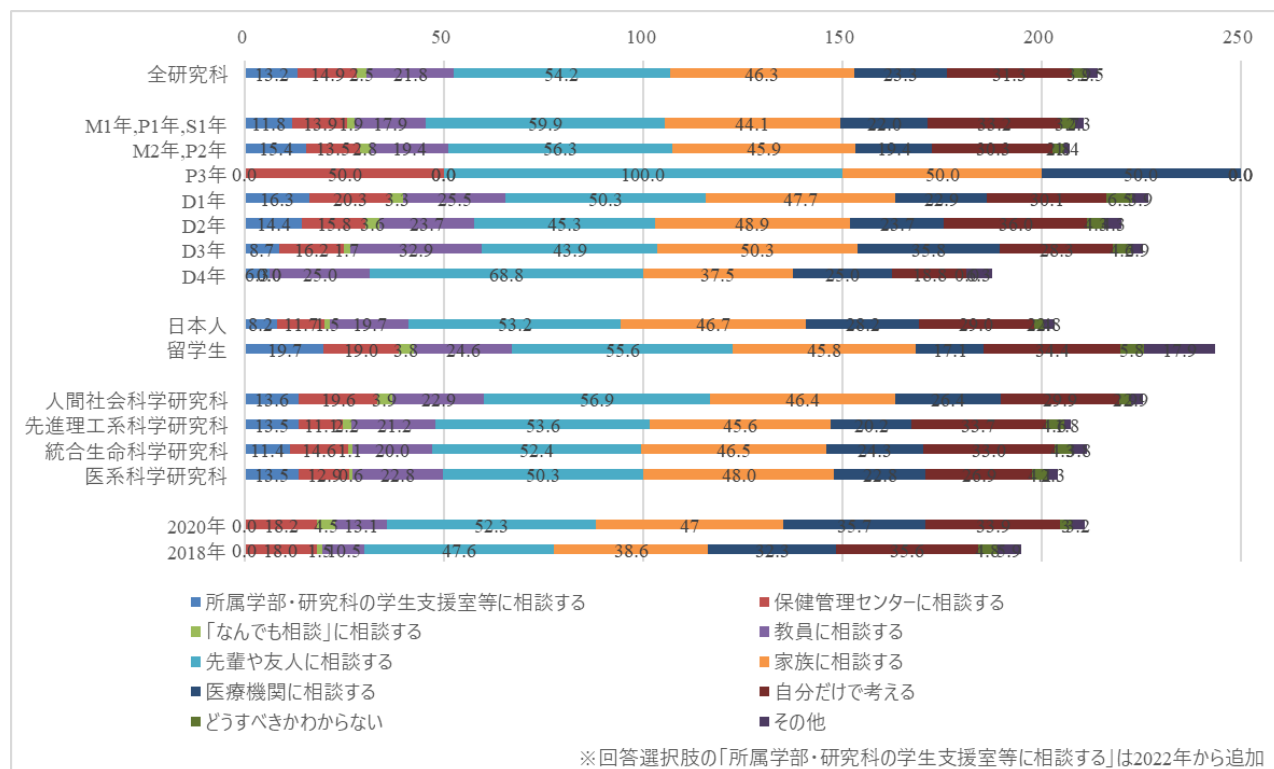
設問 41 本学にある各種相談窓口のうち、知っているものはどれですか。(複数回答可)

「知っているものはない」と回答した大学院生は、研究科によらず 15%未満となっている。当該窓口の周知状況自体には問題がないものと認められる。



設問 42 身体面、心理面で何か悩みが生じた場合には、解消に向けてどうしますか。(複数回答可)

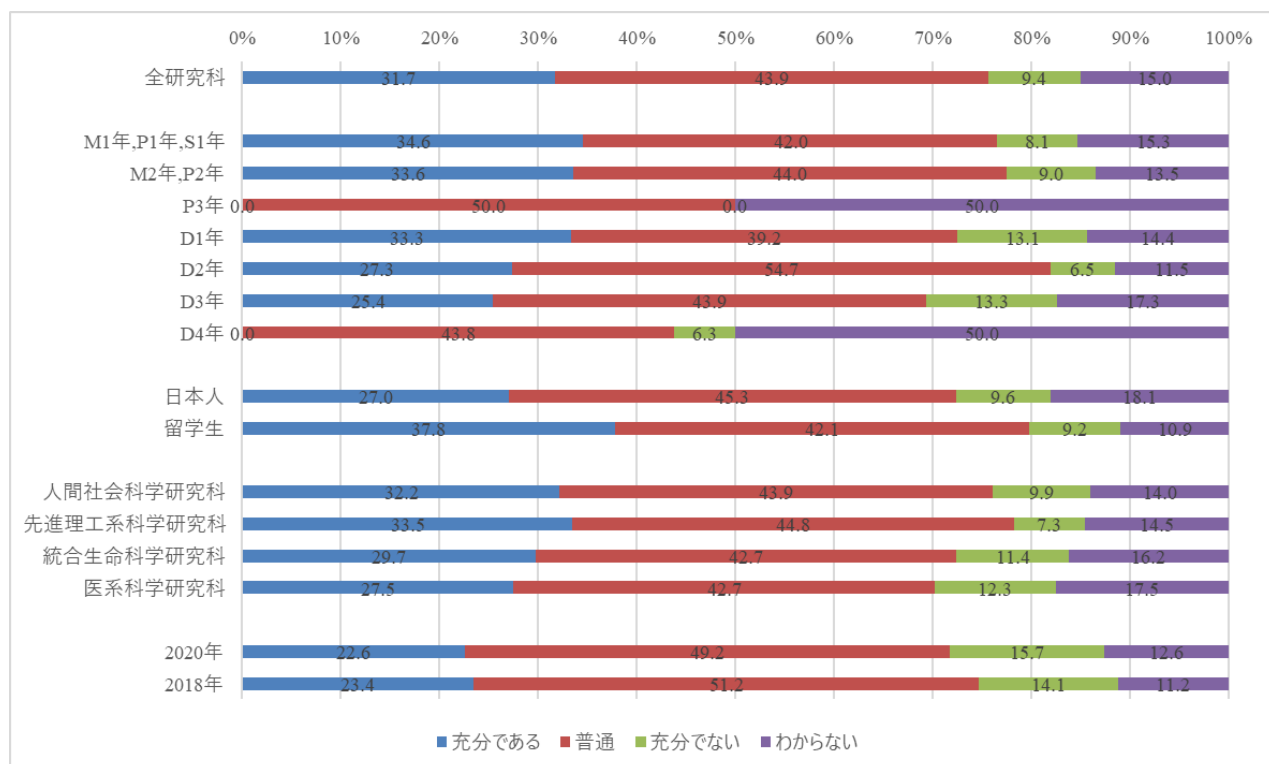
概ね前回(2020年度)の調査結果と同様の所見と見受けられる。自分だけで考える大学院生も一定数(31.3%)認められ、指導教員や部局によるサポートを期待したいところである。



※回答選択肢の「所属学部・研究科の学生支援室等に相談する」は2022年から追加

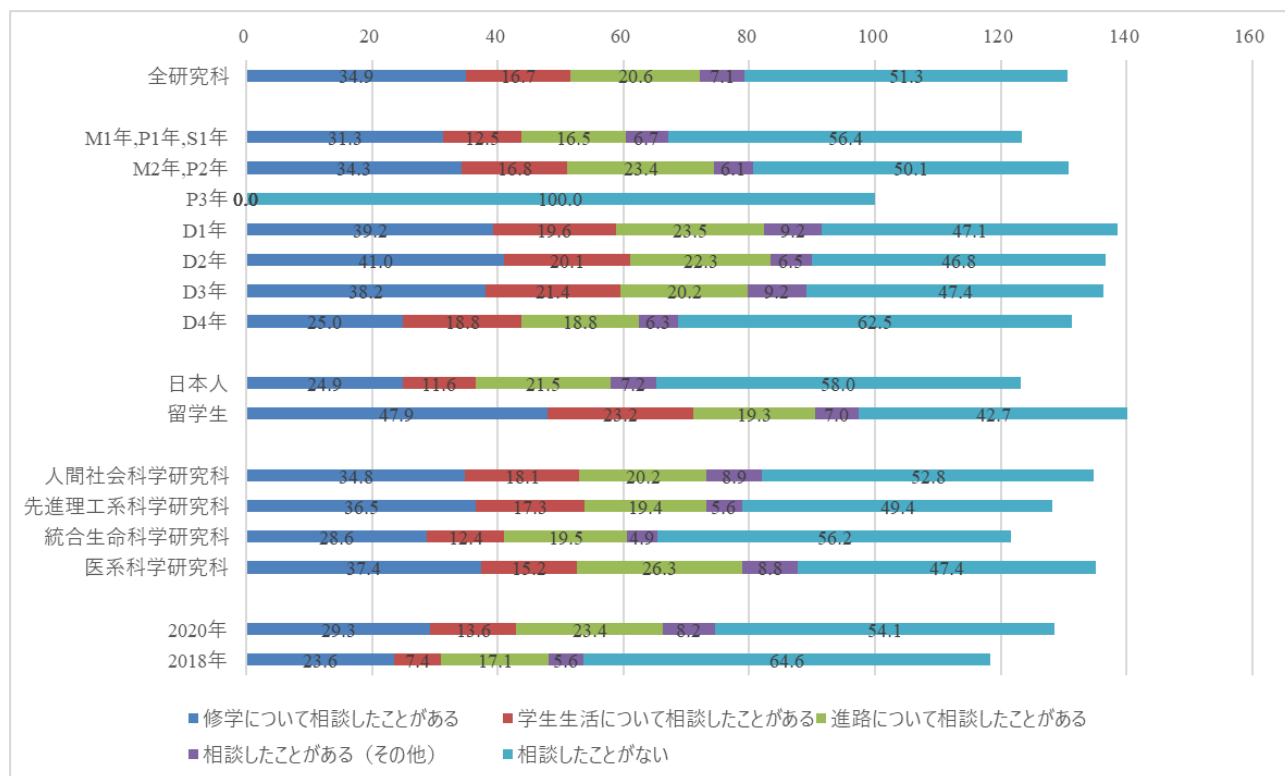
設問 43 授業以外の学生生活に関して、大学側のサポート(支援)体制やサービス内容・メニューは、全般的に見て充分だと思いますか。

前回（2020年度）ならびに前々回（2018年度）の調査に比べ、十分なサポート体制が整っていると考える大学院生の割合が増加している（2018年度 23.4%，2020年度 22.6%，2022年度 31.7%）。



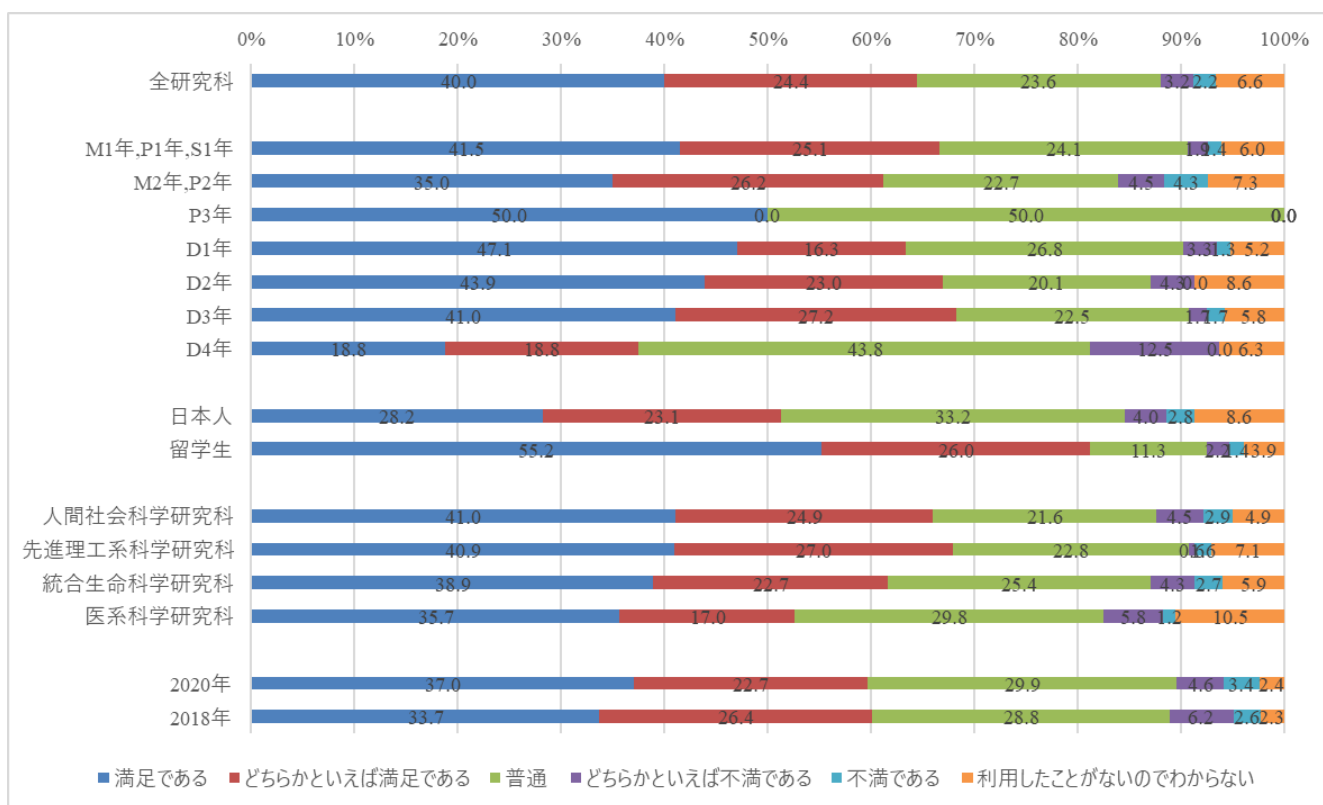
設問 44 修学や学生生活に関して相談するチューター教員がいますが、チューターに相談したことがありますか。（複数回答可）

チューター教員（指導教員）に相談したことがない大学院生の割合が依然として多い（50%前後）所見が認められる。教員からの当該働きかけ等の対策も必要ではないかと思われる。



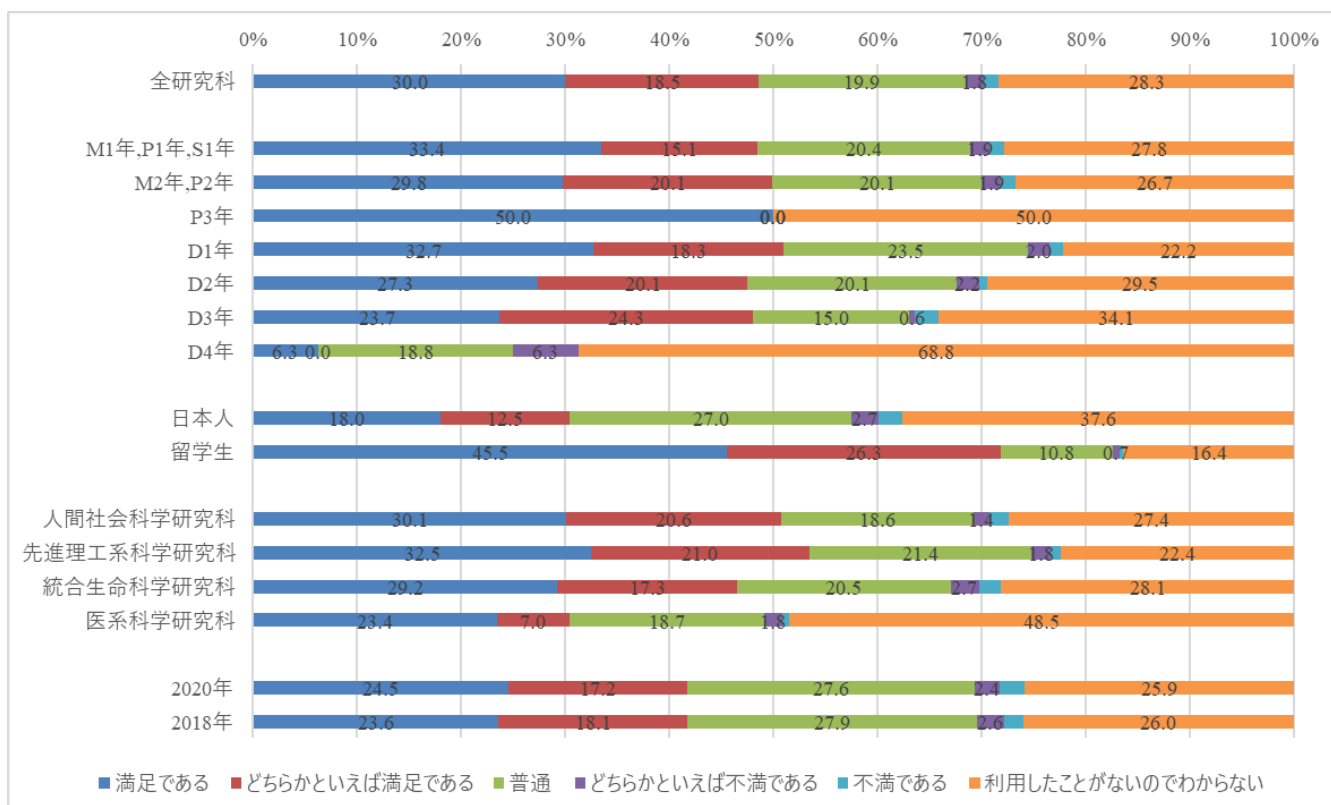
設問 45 所属学部・研究科の学生支援室の対応について、印象や満足度を教えてください。

当該満足度に若干の増加傾向（2018年度60.1%，2020年度59.7%，2022年度64.4%）が認められ、特に留学生に対するサポート体制の充実が伺える（81.2%）所見である。日本人学生に対しても当該向上を目指した取り組みを期待したいところである。



設問 46 学生プラザの学生支援部門の対応について、印象や満足度を教えてください。

留学生の満足度が良好である（71.8%）。一方、利用したことがない日本人学生が30%以上にのぼる点には継続注視および、何らかの方策も必要であると思われる。



設問 47 本学での教育・学習，学生生活などに関して，全体として「良い」，「楽しい」と感じるなど，満足していますか。

本学での総合的な満足度に若干の増加傾向が認められる（2018年度 65.1%，2020年度 66.9%，2022年度 69.9%）。留学生の満足度が特に高い点（78.6%）は本学の手厚いサポート体制を裏付けるものであり評価できる。

